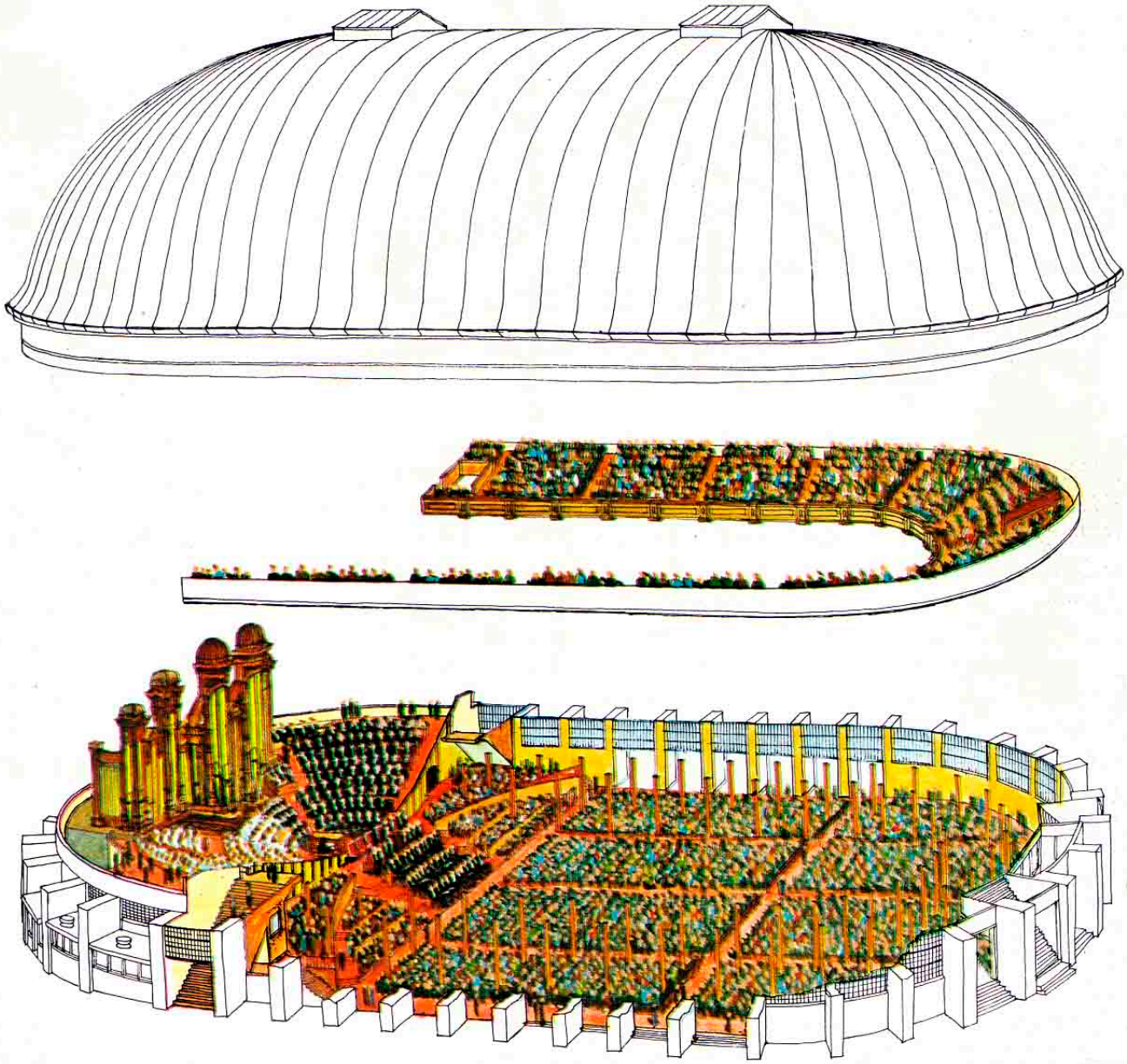
聖　徒　の　道　1970年10月20日発行（毎月1回20日発行）第14巻　第10号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

聖徒の道 1970 10



心の糧

十二使徒評議員
リグランド・リチャーズ

予言者イザヤは，我々が新しい天と地を所有し，家を建ててその中に住み，ぶどう園を栽培して，その実を食べる日のあることを先見していた。そしてイザヤは次のようにつけ加えている。「彼らは主に祝福された者のすえであって，その子らも彼らと共におるからである」（イザヤ 65：17，19〜25 参照）

幼児を埋葬したことのある人々にとって，幼児が復活して，成人になれると知ること以上に大きな慰めはないであろう。

いわゆるキリスト教会における人の作った教えはその信者たちになんらそのような慰めとなる約束を与えていない。

私はかつて仕事の同僚が一人娘を失なった時にその葬儀に参列した。このかけがえのない幼児を失なって悲しみにうち沈み，ふたたびその子に会って共にすごしたいと望む両親に，牧師は何一つ望みを与えなかった。

葬儀の後で，主は彼がそれを求めて生きるならば，よりよいものを備えておられると私はその友人に話したのである。

それ以来彼は主のまことの教会に加わり，今やあの亡くなった幼児が第一の復活の朝に出で来るのを待ち望んでいる。

——もくじ——

大会説教
責任と指導の手綱……大管長　ジョセフ・フィールディング・スミス… 257
私たちの時代……ハロルド　B．リー… 258
従順の恵み……N．エルドン・タナー… 260
予言者に必要なこと……スペンサー　W．キンボール… 263
勇気……メルビン　J．アシュトン… 265
ジョセフ・スミスを知る……ポール　H．ダン… 267
勇敢な両親を求む……ビクター　L．ブラウン… 269
平和への祈り……大管長　ジョセフ・フィールディング・スミス… 270
管理監督のページ
働くことを学ぶ……ジョン　H．バンディンバーグ… 271
召しにこたえる若者……デビド・ウェイクリング… 272
青年よ！　賜を使いなさい……パーシー　K．フェッツァー… 273
神と両親に対して……リンダ・キャンポーラ… 274
物語をしなさい……イワン・ハーブレクト・ミトン… 275
忘れえぬ人……ジョージ・デュラント… 277
心も洗い清めてくれた母……リンゼイ　R．カーティス… 278
幼児に福音の真理を教えなさい……マージュリィ・キャノン… 280
伝道部だより…… 281
誘惑につきまとわれたくなければ……リチャード　L．エバンズ…裏表紙

子供のページ

よいとりひき……34
母の日……ルーシー・パァ…35
敵を招待するパーティ……37

10月のこよみ

2日，3日，4日　末日聖徒イエス・キリスト教会第140回半期大会

9日　ソルトレークのタバナクル献堂さる 1875年

17日　ジョセフ・F・スミス第6代大管長として支持さる 1901年

31日　ハロウィーン

今月の表紙

今月の表紙は4月の総大会における聖会の支持の模様の説明図で，非常によくあらわされている。ジェラルド・L・パルスファー氏によるこのテンプルスクェアのタバナクルの分解図は，面積，座席，長椅子，円柱の数においても正確であり全体に詳しく描かれている。

＜開　会　説　教＞

責任と指導の手綱

大管長　ジョセフ・フィールデイング・スミス

愛する兄弟姉妹，私は今日，へりくだってみなさんの前に立ち，主が私に，私の家族に，またあなたがたと主のすべての民に注ぎたもう祝福に感謝する次第である。

我々は主の御業に従事している。主は地の歴史上いかなる時にもその御業をなす人々を立てたもうのである。我々は一教会として，また一つの民として，マッケイ大管長の霊感あふるる指導，偉大な洞察力，力強い腕により大いに祝福を受けてきた。彼が地上における輝かしい働きを終り，他の方法で仕えるべく天の家に召されたので，主は地上の王国における責任と指導の手綱を，残る我々の内に委ねたもうた。

我々は「主が命じたもうことには，人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり，それでなくては，主は何の命令も人に下したまわないこと」（Ⅰニーファイ３：７）を知っているので，この御業は主の導きと指示の下に繁栄し続けるであろうと我々は心から確信している。私は，自分の力でこの教会を指導できる人間は一人もいないと申しあげたい。これは主イエス・キリストの教会であって，キリストがその頭なのである。教会はキリストの名をいただき，キリストの神権を持ち，キリストの福音の儀式を施し，キリストの教えを説き，キリストの業をなしている。キリストは人々を選び，召し，主の目的達成のために御自身の道具となし，彼らを導きたもうのである。しかし，人々はあくまでも，主の御手にある道具であって，主のしもべがなし遂げるあらゆる誉と栄光とは永遠に主に帰せられる。もしこれが人の業なら，失敗することもあろうが，それは主の御業であるゆえに，しくじることがない。もし我々が戒めを守り，イエスへの証を雄々しく述べ，託された事に忠実ならば，主はそのあらゆる目的を成就するために，義なる道にある我々と教会を導きたもうという約束がある。我々の信仰の中心は，主イエス・キリストであり，キリストを通じて信仰は天父に向けられる。我々はキリストを信じ，キリストを神の御子として受け入れ，バプテスマの水においてその御名を受け，キリストの娘，息子となったのである。私は主の御業を喜び，その業が真であり，聖なるものであるという確かな知識に満たされている。私はイエス・キリストが生ける神の子であること，キリストが予言者ジョセフ・スミスを召され，この神権時代の頭として立てられ，地上に教会すなわち神の王国を再び組織されたこと，我々が従事しているその業は真実なものであることを心から証するものである。

私の父，ジョセフ・F・スミス大管長が第６代目の大管長に召された時，父は自分の献身的な副管長に感謝を述べ，主の御前に兄弟みな一つとならんために，教会のあらゆることについて彼らとよく協議することを宣言した。

さて今，私は私の副管長に全幅の信頼をおいていると申しあげたい。彼らは天の霊感により導かれている神の僕である。彼らは聖霊の賜と力とを享受しており，教会の利益となること，天父の子供たちを祝福すること，地上に主の御業を完成することだけを望んでいる。ハロルド B・リー副管長は真理と義の柱であり，偉大な霊の力と洞察力と知恵とを持った真の聖見者である。教会と教会が必要とする事柄に対する知識と理解において彼に優る人はいない。N・エルドン・タナー副管長は完全無欠で，真理に献身する立派な方である。

そして彼は人を正しく導き，相談にのり，指示することのできる管理能力と霊の力とを付与されている。またリー副管長，タナー副管長について言えることは，十二使徒定員会，その他の教会幹部についても同様であり，彼らはみな神の人なのである。私はこれらの力ある兄弟を主がお立てになり，彼らを召して教会の指導者の地位に立つ備えをさせたもうたことに感謝している。主の御業ほど大切な業は地上に存在しない。天父の子供たちにこれほどまで大きな影響を及ぼす奉仕と責任の地位は他に存在しない。主の王国における真の兄弟姉妹として働く我々一人一人が，前方にある偉大な御業をなし遂げるためによく働くことができるようにと祈って止まない。我々は信仰ある多くの人々の中に愛と調和の精神が増し加わっている時代に生きているすべての天父の子供たちの霊的，物質的福祉のために愛と関心をあらわす時に，我々はあらゆる他の教会の善意の人々に仲間入りをするのである。我々は同胞の進歩と改善のためになるあらゆる事柄において，どこにあろうとも，まじめで善良な人々に協力をおしまない。なぜならすべての人間は神の子供であり，人類家族の兄弟，姉妹であることを我々は知っているからである。永遠の父なる神が，神の手になるあらゆる業に祝福を注ぎたまわんことを。

子供たちを教える両親に洞察の力と霊感を祝福したまえ。勧告を求めて受け入れ，戒めを守る子供たちと若人を祝福したまえ。正しく，忠実に，よく主に仕えることができるように，天父の教会のあらゆる役員，教師，会員を祝福したまえ。主にあって正しきにかない，平安と幸福と人生の目的を見出すことができるよう，世とあらゆる人々とを祝福したまえ。へりくだり感謝をもってすべてを主イエス・キリストの御名により申しあげる。アーメン。

私たちの時代

第一副管長・十二使徒評議員会会長
ハロルド B. リー

私は愛する同僚キンボール長老が言われたように，ボイド・K・パッカー，ジョセフ・アンダーソン，デビド・B・ハイト，ウィリアム・H・ベネット各兄弟を教会幹部に迎えることに感慨を覚えるものである。私たちと同様に，あなたがたもきっとこの兄弟たちの力強い指導力を知るに違いない。

この時にあたって，私は愛するマッケイ大管長のことを忘れることができない。マッケイ姉妹も恐らく同じ思いに違いない。私は今この教会の歴史が新しい時代に入ろうとしている時に，マッケイ大管長のすばらしい御家族に対し，愛と祝福の気持をお伝えしたい。

今日，末日聖徒イエス・キリスト教会は，聖典に記されているように，この時満ちたる神権時代に組織されて以来140年の歴史を迎え新しい時代の1ページをひもといたのである。

今は亡き偉大な予言者デビド・O・マッケイ大管長は，地上における教会の頭としての働きを報告するべく，御許へ召されているのである。予言者の死亡に伴い，常に教会と社会において大きな出来事が起きている。私はこの地上で人々が行なっていることを考えると，予言者が造り主に対してそれ程よい報告ができるだろうかと考えている。

教会の管理者が代わる時，その移行はキンボール長老も言われたように，主の御業に混乱と不満をもたらす大きな原因となる政治的な手段，あるいは革命的な方法などを避ける意味で定められた計画と，特異な方法で行なわれる。

デビド・O・マッケイ大管長とそれ以前のすべての大管長は，私たちに知恵と知識という豊かな財産を残してくれている。それぞれの大管長が亡くなるたびに，人々の心は感謝で一杯になり，あたかも一緒に天に昇って行きたいような気持になるものである。彼らの生涯と業績，残した言葉などは幸いにして教科書に記され，あるいは教会の歴史やあとに従った人々の記憶に留められている。すべての信仰深い人々に対するそのような遺産を神が祝福したもうように。大管長たちの偉大な記録は，彼らが熱心に働きかけてきた人々の心に刻まれることだろう。

ここで，大管長の死に伴う教会の再組織について何らかの意見を述べることは多くの教会員またその他教会に興味を持つ人々にとって多くの疑問を解明し，指示を与えると思われる。

「教会の大管長はどのようにして選ばれるのか」と質問する人に対して，正しく明解な答えを信仰箇条第5条から引用しなければならない。「われらは，福音を宣べ，且つその儀式を執り行うためには，啓示と，権威ある者の按手により，神によりて其任に召されねばならぬことを信ず。」

人が大管長に召される場合，実際には十二使徒定員会の会員として召され，聖任され任命されるところから始まる。すなわち，啓示言い換えれば主の霊感により大管長会の鍵を有する者として召され，次に同じ権能により按手聖任，任命されて，使徒職をもつ十二使徒定員会の一員となるのである。

こうして教会の大管長により聖任されたすべての使徒は，他の聖任された使徒たちと共に神の王国の鍵を握り，教会のあらゆる職に必要な神権の権能を持つ。そして管理役員により召され，教会員の集まりにおいて賛成の挙手を受けて支持された場合には，教会を管理する職をも受けるのである。

予言者ジョセフ・スミスはこう宣言している。「大管長がいなければ大管長会は成り立たない。」大管長の死に伴い，次位にある十二使徒定員会が即座に管理役員となり，新しい大管長が公式に聖任され支持されるまで十二使徒会会長が大管長代理を務める。

この神権時代の初期において，ある事情から十二使徒評議員会が新しい組織の完全にできるまで，3年もの間教会を管理したことがあった。教会の情勢が安定するにつれて，大管長の死後すぐに新しい大管長会が組織されるようになってきた。

大管長会と十二使徒会の会員はすべて通常「予言者，聖見者にして啓示を受ける者」として支持を受ける。これは今日でも変わらない。啓示によると，これは，選ばれ聖任されたすべての使徒が，「当団体（完全な十二使徒定員会と解釈されている）によりて選ばれその職に任命して按手聖任され，教会員の信任と信仰と祈りによりて支持せられ」た場合には，教会を管理することができるという意味である。その場合，管理するのは十二使徒定員会の先任使徒，すなわち会長である。（教義と聖約107：22参照）

時折，先任の十二使徒以外の人が大管長に召されるかどうかという質問を耳にする。この件に関して，主が十二使徒会会長に他の人を選ぶよう啓示した場合のみ，先任使徒以外の人が教会の大管長になることができるという考えがある。

主はこの神権時代における最初の予言者に前もって定められている地上の神の王国の組織を通して，教会の指導者に関する秩序正しい計画を示された。これらを話し合う上で，主は次のような説明を与えられている。

「メルケゼデク神権を有てる者の中三人の管理大祭司あり，当団体によりて選ばれ，その職に任命して按手聖任され，教会員の信任と信仰と祈りによりて支持せられ，当教会の大管長会なる定員会を構成す。十二人の巡回

評議員は召されて十二使徒となる，すなわち全世界に於けるキリストの御名の特別の証人となるべき者なり。すなわち，かくの如く彼らは当教会に於ける他の職員とは，その天職に就ける義務を異にす。またこの十二人は，前記の三人の管理大祭司と権威と権能とを同じくせる定員会を構成す。」(教義と聖約107：22～24)

この問題について，第4代大管長ウィルフォード・ウッドラフは，当時十二使徒会の一員であったヒーバー・J・グラント大管長に宛てた1887年3月28日付の手紙で所見を述べている。以下にその手紙を引用する。

「教会の大管長が死んだ場合，教会の管理役員にはだれがなるのであろうか。それは，(他ならぬ神の啓示により聖任され，組織された)十二使徒定員会である。それではこの十二使徒たちが教会を管理する時，教会の大管長を務めるのはだれであろうか。十二使徒会の会長である。会長は，大管長会が組織された時に2人の副管長を管理するのと同様に事実上，十二使徒を管理しながら教会の大管長を務めるのである。」そしてこの原則は，教会が組織されて以来140年を経た今も実行されている。ウッドラフ副管長はさらにこう続けている。

「私に関する限り，教会の歴史にも記されているように，教会が組織されて以来使徒たちのたどって来た道，あるいは過去57年間全能なる神の霊感によって使徒たちが歩んで来た道からそれるような挙手をしたりまた影響を与える前に，教会を組織し，57年の間同じ経路を通して導きを与えてこられた神からの啓示を必要とする。」

ジョセフ・フィールディング・スミスが教会の大管長に召されたことには大きな意義が含まれている。彼の祖父にあたるハイラム・スミスに関して，主は予言者ジョセフ・スミスに次のような啓示を与えられた。

「また，われ誠に汝らに告ぐ，……わが僕ハイラム彼の父により，祝福によりまた当然の権利により任命せられし祝福師たる神権者の職に就かん……。かくして，今後彼はわが民ことごとくの頭上に授くる祝福師の祝福につける鍵を保ち，何人にても彼の祝福する者は祝福せられ，彼の咀う者は咀われ，かくて何にても彼のこの世に於て結ぶところは天に於ても結ばれ，彼のこの世に於て解くところは天に於ても解かるるなり。」(教義と聖約124：91～93)

ハイラムには，この職に加えて彼の後に続く教会のどの祝福師にも与えられなかった今一つの祝福が与えられた。

「されば今後われ彼を任命して，わが僕ジョセフと同様にわが教会の予言者，聖見者，啓示を受くる者となす。こは彼がまたわが僕ジョセフと一致して働くためにして，かくてわが僕ジョセフの助言を受け，またジョセフは彼に諸々の鍵を示さん。この鍵によりて彼は願わばすなわち受けて，嘗てわが僕なりしオリヴァ・カウドリに与えられたると同じ祝福と栄と誉と神権と神権の賜とをその頭に受けん。こはわが僕ハイラムのわがこれより彼に示すところを証するためにして，かくしてその名は子孫代々永遠に覚えられて誉とならん。」(教義と聖約124：94～96)

彼の息子ジョセフ・F・スミスは，1901年から1918年まで教会の第6代大管長として務めている。そしてジョセフ・F・スミス大管長は，子供の頃ミズーリやイリノイで苦しい時期を送った。父ハイラム・スミスが叔父の予言者ジョセフ・スミスと共にカーセージで暴徒たちに殺された時，彼はわずか9才の少年ながら，手車を引いてミズーリ川から平原を横切り，1848年ソルトレーク盆地にたどりついた。1852年母を亡くした彼は，2年後若干15才にしてハワイ諸島への伝道に旅立っている。

これが，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長を生み出したハイラム・スミスの家系である。私は，天も今日のことを喜んでおられると確信している。そして彼の先祖たちが，この高齢にもかかわらず主から大いなる責任を賜わった子孫の側にきっと来ていることだろうと思う。彼らがこの場に同席していたとしても，私には少しも不思議に思えないのである。

私は以上述べたような啓示を引用して，ハイラム・スミスに続く人々が，自分達にも脈々と流れているこの神権時代の予言者の高貴な血統を守るよう，心をつくして努力するように申しあげてきた。

きょうの出来事を通して，私は今までの人生をふりかえり非常に厳粛な思いにかられている。新しい大管長会が選ばれ聖任された神殿の上の部屋で聖なる使徒職を持つ13人の同僚と共にした霊的な経験以来，ここ2カ月ほどの間に私は今までの生涯をふりかえり，未来のことを考えてきた。

その間，私はずっと自分の限界を思い知らされ，そしてかつてないほどに，天父なる全能の神により頼んでいる自分を知ったのである。それは力と知恵，また物事を見通す霊的な目を自分の限界以上に今必要としているからである。大管長を初めとして十二使徒定員会から選ばれ，今しがた多くの神権者たちとタバナクルに集まった教会員たち，あるいは見えない所でこの聖会に参加している信仰深い人々すべてから支持されたこの職も，神の助けがあって初めて私にできるのである。

私は今，この神権時代の歴代の偉大な指導者を思い起こして，自分がふさわしくない者であるという感に身がふるえる思いをしている。このことを考えた時に，長いこと考え祈った結果，私のような者は過去の偉人に取って変わることはできないとはっきり知ったのである。これらの責任に召された私たちは，時の経過によってもたらされた空席を埋めるにすぎないのである。過去の偉大な指導者たちは今もなお永遠の世にあってその地位にあり，その偉大な恩恵を受けた多くの人々の心に生きているに違いない。

現在私たちがよく知っている旧約聖書の予言者たちが書いた聖典を含む真ちゅう版を取り返すようにと，父リーハイからむずかしい責任を与えられた時の古代の予言者ニーファイの心境が私にはほんとうによくわかるのである。

ニーファイはこの時の経験を次のように記している。

「私ニーファイはただ一人都の中へ忍びこんでレーバンの家の方へ進んで行った。私は何をせねばならぬのか，前以ってそれを知らずにただひとすじに『みたま』に導かれて行った。」(Ⅰニーファイ4：5～6)

よくわかるだけではなく，現在非常に痛感している次第である。

私のしなければならないことは，昔ニーファイがそうであったように，多くのことを「前以ってそれらを知らずにただひとすじに『みたま』に導かれて」行なうことであると思う。私は忠実な聖徒である皆様方に身も心も霊も尽し，全身全霊で務めたいと思っている。しかし，自分の全時間を費してあなた方のために務めたとしても，それはベンジャミン王が言ったように，「これを自慢したいと思って言ったのではない。私が務めたのはた

だ神のために務めただけである。』ということを心にとどめていたい。(モーサヤ２：16)

私も神の聖徒たちである兄弟姉妹に仕える時に，「ただ私たちの神のために務め」るよう一心に祈りたい。

かつてそうであったように，現在も聖霊が私の心に証してくれるままに皆様の前に私の証を述べたいと思う。世の救い主，造り主である主の贖いにより，すべての人類が救われるという真の救いの計画は，この末日における真のイエス・キリストの教会に託されていると。主イエス・キリストは生きたまい，きょうここにおいて大管長であり予言者，聖見者にして啓示を受くる者として支持を受けた人を通して，聖なる御座から地上における神の王国を治めたもうことを証するものである。

従順の恵み

第二副管長
N. エルドン・タナー

この麗しい安息日の朝，ここに集った皆様と，放送を通して今聞いている方々に大管長会と教会幹部を代表して御挨拶できることは，私にとって特権であり大きな喜びとするところである。

先週，私たちは主なる救い主の復活を祝った。それは，主を受け入れて戒めを守ろうとする人々にとって，希望と約束をもたらすものである。主は言われた。

「わたしがきたのは，羊に命を得させ，豊かに得させるためである。」(ヨハネ10：10)

「わたしはよみがえりであり，命である。わたしを信じる者は，たとい死んでも生きる。また，生きていて，わたしを信じる者はいつまでも死なない。」(ヨハネ11：25～26)

そして主はさらに，次のような確かな御言葉を与えられている。

「これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ１：39)

主は私たちのために命を捧げられ，また主の戒めを守る者に約束された祝福にあずかれるよう，一つの御計画を与えて下さった。

この末日において，主は次のように説明しておられる。

「そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの変らざる律法ありて，あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち，われら何にても神より祝福を受くる時は，この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。」(教義と聖約130：20～21)

現在の社会情勢は私たちにとって最大の関心事であり，すべての人々は個人の生活や地域社会，あるいは世界中の国々に影響を与えている多くの問題に対する解答を求めている。

今日の世の中が次第に放縦で反抗的な情勢になってきたことを認めながらも，私たちはそれを日常の会話やマスコミで取り上げて，充分に話し合うことにあきあきしている。しかし，私たちはもっと積極的な態度をもって福音を実践し教えることに努力を傾けなければならない。こうすることにより悪の原因が取り除かれ，世の中が改められていくのである。世に反抗している人々も含めてすべて自分に正直な人々は，究極の目的が幸せでありよりよい人生であることを認めなければならない。

これを心に留めて，私は「従順の恵み」というテーマで話を進めて行きたいと思う。話をする上で，主のみたまがここにあり，私たちを導いてくれるよう祈りたい。では，サウルに言ったサムエルの言葉を思い出してみよう。「従うことは犠牲にまさり，聞くことは雄羊の脂肪にまさる。」(サムエル上15：22)

また次のことも思い出していただきたい。

「キリストの贖罪により，すべての人類は，福音のおきてと儀式とを守ることによりて救われ得る」(信仰箇条第３条)

つい先日のこと，私は１人の若者と話した。彼は，「『ああしろ，こうしろ』と言われることにあきあきしてるんです。自分のしたいことは自分で決められる自由が欲しいですね」と言っていた。

それに対して私はこう答えたのだった。

「人の権利や自由を制限したり強制しない限り，あなたは何をしようと自由ですよ。でもあなたは自分の行為に対して責任があり，その結果を受け入れる心構えをしなければなりませんね。」

私は，主が人に与えたもうた最大の賜は次の３つに分けられることを説明した。第１に不死不滅と永遠の生命を受ける権利，第２にそれを得るための計画，そして第３に自分の行動を決める自由意志。主は私たちに，この世にあって最大の喜びと幸福をもたらす計画を与えられ，これにより私たちは永遠の生命を得る備えをするのである。この永遠の生命を得るためになすべきことは，律法に従い，主の戒めを守ることである。

私はその青年に，あらゆる情況においてすべてにあてはまり，決して変わることのない物理的あるいは自然の法則について考えてみようと提案した。わざとにしても偶然にしても，もし人が熱いストーブあるいは高圧線に触れたとしたら，皮膚は焼けただれてしまう。また人を救うためであっても，猛スピードで走っている車の前に飛び出したとしたらけがをするか恐らく死ぬだろう。だれであっても，またどんな意図があろうとも私たちがこのよ

うな法則の支配を受けている例は数限りなくある。私たちには自然の法則を変えることはできないのである。

自然の法則を理解して尊重する時，私たちはそれを良いことに使うことができる。もし無視すれば災を被り，従えば祝福を受けるのである。太陽は毎朝ある一定の時間に昇り，実体はまだ知られていないながらも電気は同じ条件のもとに同じ反応を示す。そしてまた1年のある日に日食は起こる。自然の法則は決して変わることがないからである。これら自然の法則の恩恵が私たちに知らされていることはすばらしいことだと思う。

いろいろな分野における技術者，医者，科学者が，自然の法則を無視しているところを想像していただきたい。人は，何かをする上で影響のある自然の法則をないがしろにすることはできないし，そうしたとしたら成功は無である。事実そこから生じるものは悲惨な結果である。

すべて神の律法，自然の法則，国の律法は人のため，すなわち慰めや喜び，安全，福祉のために造られている。そしてこの律法や法則を学んで，それに従いあるいは戒めを守ることによって恵みを受けるかどうか決めるのは個人の問題である。私が今日お話しする目的は，律法や法則が私たちのためにあり，幸福を得るためには私たちの行動に伴う律法や規則に従わなければないことを示すことにある。すなわち，これらの律法や法則は，私たちの行動によって喜びや幸福にもなるし，悲しみや害ともなるのである。

月に着陸したあのアポロ11号の飛行を成功させるためには，詳細にわたってあらゆる自然の法則に従う必要があった。この準備にあたった人は，肉体的，科学的，その他飛行に関係あるすべての法則を理解して，応用しなければならなかった。これらの法則を制限や障害と考えるのではなく，むしろプログラムを遂行する手段として考えたのである。そして彼らは，成功のもととなる法則をすべて学び，従うことによって使命を果たそうとした。

これは人生においても真理である。音楽家やスポーツマンになること，あるいは学位を取ったり価値あることを達成するには，まず私たちは目標を定め，したいことやなしとげたいことを決めなければならない。次に成功につながる法則をみきわめ，達成するために自身を律することである。このようにするなら，私たちは成功への道を進んでいることになる。一方絶えず律法や法則に逆らい，要求されることに不平をいう人は，欲求不満を起こして反抗的になり，ついには目的を達成できないのである。

律法や法則を破らないとしても，適用する時に尊重していなければ自分を破滅に導いていることになると言われている。すべてにおいて律法や法則は適用され，私たちの行動によって結果が決まる。私たちには自分を律する準備をしなかったり，さらに高い望みを達成するのに必要なことをしない時がよくある。

すべての人が，律法や法則を人に益するものと考え敬い従うならば，それは健康や幸福福祉を得るうえで大きな役割を果たすものとなる。律法や規則のない町，社会国家を想像していただきたい。私たちが律法に従がわなかったり侮ると，それにつれて私たちの自由は失われ，同時に人の自由をも奪って，世は無秩序と化すのである。もし現行の律法が悪いものであるなら，人々は政府団体を通した正しい合法的な手段を取らなければならないが，律法として存在する間は従わなければならない。

人生において，私たちは自分の希望する生活あるいは環境を決定しなければならない。世の中には，現在もなおジャングルに住む人食い人種が存在し，そこでは動物的な本能が人間の規則として横行し，ジャングルの律法が適用されている。私たちがそのような人生を望むのであれば，それも可能である。しかしながら，私たちが存在する目的の1つは，これらの動物的本能を超越して，社会的に高度な水準の人間に到達することである。

これを達成するために，父であり創造主である神と御子イエス・キリストは，私たちの幸福と成功を望んで，律法を与えられた。人生においてこれを適用するならば，社会あるいは人間関係は改善されるのである。すべての人が律法に従うならば，今日世にはびこっているような不安な状態はなくなり，青年たちも主義とはかけはなれた現在の社会に対して抗議する必要も理由もないわけである。

ここで，モーセの時代同様今日にもあてはまり，後にキリストによって教えられた十戒について少し考えてみたい。すべての人々が「あなたは盗んではならない。殺したり，隣人のものをむさぼってはならない。また姦淫したり，隣人について偽証してはならない」という戒めに従うなら，自分のものではない家や財産に執着を持つこともなく，だれかに盗まれるとか，だれかに殺されそうだという不安もなく，いついかなる時も，どんな所にも安心していられるのである。

欲や陰口，姦淫などのない世の中に住む喜びを心に描いていただきたい。そこではだれもが律法に従った生活をしている。平和で幸福な生活に加えて，互いに力づけ，助け合うことができる。お金についても，律法を実施したり犯罪をなくしたりするためにだけ貯めればよい。すべてそれらは貧困を救い，保健衛生や教育施設を改善したり，その他有益な目的のために使うこともできるのである。これらの戒めを守ることにより，私たちがこの世で受ける恵みには限りがないのである。

人生において非常に重要ないま一つの戒めは知恵の言葉と呼ばれている主の健康の律法である。そしてこの律法は，すべての家庭において模範と教訓をもって教えられるべきものである。知恵の言葉は，タバコやアルコール飲料，その他身体に害になるものをとらないようにと戒めている。この中には幻覚剤の使用も含まれていると思う。

この律法は100年も前に主から与えられたものではあるが，科学者や経験により，以上述べたものが身体にとって害になるばかりでなく，社会をも脅すものであると証明されるまで一般には無視されていた。今でも多くの人々はこの律法を無視し，危機を招く準備をしているのである。これらを使用した結果は，家庭の崩壊や病気となって表われ，肉体ばかりでなく精神をもだめにし，のたれ死というような悲惨な出来事が数限りなく生じる。これらはすべて，立法行政関係者を初めとして社会全体が深刻に憂えている問題である。

先日の夜新聞を読んでいて，車による事故で命を失なう率が1969年の倍であるという記事を読んだ。そのうちの26％は酔払い運転が原因であった。

「肥満ノイローゼ」にかかるよりも，タバコをすった方がいいと言っていた有名なテレビ俳優が，肺ガンのために45才で死んだ。彼はガンだと知った時に初めてタバコをやめた。

あるホテルではタバコの不始末が原因で14名の命が失われた。また同じ原因で建物が燃え，1万ドル相当の損害を被った話もある。

現在マリファナの害は深刻化し，若者たちは幻覚剤によって正常な意識を失っている。

今日の社会で多くの悲劇の原因となっているこれら有害な物質を制限したり，あるいは根絶するのは，私たち自身，若人そして国家の未来にかかっていると思われる。

主が，次のような戒めを守る者に与えられた，偉大な栄光あふれる約束に耳を傾けてみよう。

「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行い，この誡命に従って歩むすべての聖徒らはそのへそに健康を受けその骨に髄を受けん。また智恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。而して走れども疲れず，歩けども気を失うことなからん。主なるわれ彼らに一つの約束を与う。すなわち，さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く，彼らを過ぎ越して屠ることなかるべし。」（教義と聖約89：18～21）

これ以上の祝福があるだろうか。

もう一つ非常に大切な戒めを引用させていただきたい。

「安息日を覚えて，これを聖とせよ。六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神，主の安息であるから，なんのわざをもしてはならない。」（出エジプト20：8～10）

さらに主は言われた。

「汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。」（教義と聖約59：9）

反対意見は多くあるかもしれないが，これは神の律法であり，宗教的であるが故に道徳的な律法である。すべての律法がそうであるように，もし従えば他では受けられない祝福をもたらし，従わない時には心がとがめられる。

安息日を聖とすることにより，礼拝と勉強を通して福音の教えを学び理解することができる。また永遠の運命において大切な御方である神を知ることもできるのである。

主はこう言っておられる。

「永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，また，あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ17：3）

確かに7日に1度は造り主に思いをはせ，霊的なものを養い，神への従順を学ぶことができるし，そうしなければならないと思う。また子供たちに敬虔な思いと従順とを教える必要もある。人生で学ぶ最大の教訓は，「人はパンだけで生きるものではなく，神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」ということである。（マタイ4：4）

ある人が賢明にもこう言っている。「神の律法を，人の思うままにできる単なる便利な力とみなしている者に災あれ。己れの富と装備の力，そして地位の安泰を過信する個人や階級，国家に災あれ。」神の律法を無視しては，どんな文明も続かず，どんな国家や国連も存続しえないのである。主の戒めはこうである。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば，これらのものは，すべて添えて与えられるであろう。」（マタイ6：33）これは，私たちのためになるすべてのことを意味している。

物質的な欲望や楽しみを満たそうと望んでいる限り，私たちは安息日を聖とすることも祝福を享受することもできない。実にこう言われているのである。「物質的なものには沈んだ霊を奮起させる力はない。この世の富ではうちひしがれた心をいやすこともなく，全世界の知恵を集めても気ままな心を善に向かわせることはできない。」

祈りの家に行って安息日を聖とすることは非常に大切ではあるが，霊的なことを教える場は教会だけにまかされているのではない。両親には，家庭で神の律法を教えるという第一にして非常に重要な責任がある。主もこう言っておられる。

「また，シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば，その子供八才の時，悔改め，生ける神の子キリストの信仰，バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば，罪その両親の頭に留るべし。」

「また両親はその子供たちに祈ることと，主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」（教義と聖約68：25，28）

これは，主を愛し，敬い，従うという戒めを守ることである。

子供たちに，戒めを守り神の前に正しく歩むように教えるのであれば，両親である私たちはその生きた模範にならなければいけない。どんな律法も破ればとがめは免れず，そんな状態では子供たちに，自分たち両親あるいは律法を敬い従うように期待することも無理である。また，子供たちの心になぜ戒めを守らなければならないかという大切な疑問を起こさせないで，主の教えや戒めを問題とすることもできないのである。私たちは偽善者であってはならない。ある事に対して信念を述べておきながら，自分は違った生き方をしたり，子供に次のような戒めを守って欲しいと思うのは虫が良すぎると言えよう。「あなたの父と母を敬え。これは，あなたの神，主が賜わる地で，あなたが長く生きるためである。」（出エジプト20：12）

従順を教えられ，律法を敬い従い，また神への信仰を持ち戒めを守るように教えられている子供は，成長するに従って自分の両親を敬い，両親の誇りとなるのである。そして問題に出合っても賢明に解決し，人生の大いなる成功と喜びを見い出して，世の憂いの原因となっている多くの問題を解決する上で大きな働きをなすことであろう。子供たちが，従順を通して未来の指導者としての備えをしているかどうか心を配るのは両親の責任である。そこから生まれる子供の責任感は，世に平安と正義をもたらすのであろう。

主の御心は次の言葉に要約されていると思う。

「『心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ』。これがいちばん大切な，第一のいましめである。第二もこれと同様である，『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これらの二つのいましめに，律法全体と予言者とが，かかっている。」（マタイ22：37～40）

確かに，主を愛するならば私たちは主の戒めを守り，同胞を愛するならば，この地上は理想的な状態となることができよう。

主はさらにこう約束されている。

「正しき業を行う者はよき報いを得，すなわちこの世に在りては平和を得，次の世に在りては永遠の生命を得ん。」（教義と聖約59：23）

きょう私は皆様に，神を父として，また御子イエス・キリストを世の救い主として受け入れ，その戒めを守るならば，私たちはこの世だけでなく次の世においても大いなる喜びを得ることを証するものである。このことがすべての人にとって祝福となるよう，イエス・キリストの御名によって謙遜に祈り奉る。

アーメン

予言者に必要なこと

十二使徒評議員会会長代理
スペンサー　W.　キンボール

きょうの大会の模様を目にして，深い感銘を覚えると同時に，何か恐ろしいような気がしている。ここで私は，十二使徒定員会の一員となられたボイド・K・パッカー長老に，心より歓迎の意を表したいと思う。彼がこの大いなる召しを受ける前，すなわち十二使徒補助の時より，私たちは彼の成長を目のあたりにしてきた。ここにおいて，彼は真の兄弟愛の極みを見出すであろうと私は確信している。

また，長年の間私たちの力であったジョセフ・アンダーソン長老，そして絶えず献身的に力強い働きをなさっておられるデビド・B・ハイト長老，ウィリアム・H・ベネット長老を教会幹部として歓迎したく思う。

今年は世にあって注目に値する年である。時は1月，歴史はその大切な時にさしかかった。新しいページが開かれ，新しい時代を迎えるのである。

1970年1月18日，日曜日朝，一人の偉人の胸の鼓動が止み，年老いた体は深い眠りに入った。さながら地震が地を揺がすように，この知らせはあまねく全地に行きわたり，無数の人々は現世の生涯を終えたこの神よりの偉人に讃辞を呈すると同時に，一抹の悲しみを味わったのである。

何日もの間，今は亡き指導者の顔を今一たび見ようと，雨の日でさえも彼を慕う人々の列が続いた。

タバナクルには彼を愛する人々が集まり，彼を称える言葉が聞かれた。

予言者デビド・O・マッケイのこの世の体は，厳かな雰囲気のもとに安置されている。

私たちは悲しみにうちひしがれ，心を痛めようとも，この霊感あふれた予言者がジョセフやブリガム，ウィルフォードの名予言者たちの群れに入ったという喜ばしい気持がある。

うつろな心の私たちには，彼がいなくてもやっていけるとは思えなかった。しかし，一つの星が地平線のかなたに沈む時，新しい星が表われる。死は生命を生むのである。

主の御業はやむことがない。たとえ力強い指導者が死んでも，王国に永続性をもたせられた神の恵みにより，教会はその指導力を一瞬も失うことはないのである。

この時満ちたる神権時代になってからすでに8度も経験してきたように，人々は敬虔な気持で墓を閉じ，涙をふいて未来に目を向けた。

教会の大管長が死ぬと，充分に経験と訓練を積んだ人々が一つのグループになって教会を指導する。以前からそのように任命されており，この人々に権能が与えられて鍵が委譲されてきた。5日の間，王国はすでに権能をもつこの十二使徒評議員会のもとに進められた。地位を争うことも，そのための選挙運動や演説もない，まさしく神の御計画である。主は賢明にも人の心をよく御存知で，人間の弱さを超越した完全な組織を造られた。

（1970年1月23日）記念すべきその日が訪れて，14人の人々は敬虔な面持で神殿に向かった。末日聖徒イエス・キリスト教会を管理する十二使徒定員会の会員たちであり，その中にはこの厳粛な経験をすでに何度かしている人たちもいた。

午前もだいぶまわった頃，彼らが聖なる宮居から出て来た時，世にあって最も大切なことが起こった。短期間ながら大管長のいない時は終りを告げ，王国は十二使徒定員会から新しい大管長の手に委ねられたのである。地上における主の代理人である新しい指導者はこの崇高な召しに向かって60年もの間地道な働きをなして来た人であった。今や教会は彼の管理のもとにある。

しかし，彼が高い職を受けたのはその名前ゆえではなく，幼ない時に当時の予言者を通して，使徒すなわち十二使徒定員会の会員になるよう主から召されていたのである。さらに，時が来て十二使徒の頭としてまた大管長になるべく大切な鍵がとっておかれたのである。

神殿で行なわれた意義深い会議において，十二使徒たちにより教会の大管長に「聖任され任命」されると，彼は2人のすばらしい副管長を選んだ。教師や事業家，公務員，特に教会の指導者として豊富な経歴をもつハロルド・B・リー長老と，N・エルドン・タナー長老がその人である。

3人の大管長会と新しく構成された十二使徒評議員会は，質素にしかも謙遜に第1歩を踏み出した。そして時代は，大いなる進歩と比類ない発展を約束された新しい時期に入ったのである。

新しい世の中に回復された計画を紹介したのは一人の若い少年であった。ジョセフ・スミス（1805年12月23日—1844年7月27日）がわずか24歳の時に，教会は組織された。

彼が38歳で殉教した時，当時46歳の第2代大管長ブリガム・ヤング（1801年6月1日—1877年8月29日）は十二使徒会会長および教会の大管長（1847年12月27日）となり，その後30年間（76歳まで）教会を管理した。代々の大管長は，それぞれ62歳から84歳の間に大管長になり，79歳から96歳でこの世を去っている。

ジョン・テイラー（1808年11月1日—1887年7月25日）は71歳で，大管長になり（1880年10月10日）78歳で亡くなった。彼の死により，ウィルフォード・ウッドラフ（1807年3月1日—1898年9月2日）が十二使徒会会長（1887年7月25日）となり，2年後（1889年4月7日）82歳で大管長に指示され，91歳で亡くなっている。その後ロレンゾ・スノー（1814年4月3日—1901年10月10日）が十二使徒会会長になり，大管長になったのは（1898年9月13日）84歳の時であった。ロレンゾ・スノーの務めた大管長会の期間は短かく，わずか3年であった。（1901年10月10日まで）

ジョセフ・F・スミス大管長（1838年11月13日—1918年11月19日）は7日の間（1901年10月10日から）十二使徒会会長を務め，1901年10月17日62歳で大管長となり，80歳で生涯

を閉じた。

ヒーバー・J・グラント大管長（1856年11月22日—1945年5月14日）が十二使徒会会長を務めたのは1週間そこそこで（1918年11月23日），62歳で大管長になり，88歳でこの世を去っている。

ジョージ・アルバート・スミス大管長（1870年4月4日—1951年4月4日）は7日間十二使徒会会長の職にあり，75歳で大管長（1945年5月21日）となってから，亡くなる81歳まで務めた。先週の土曜日は，彼の生誕100年にあたった。

第9代大管長デビド・O・マッケイ（1873年9月8日—1970年1月18日）は，十二使徒会会長を5日間務め，77歳の時（1951年4月9日）に大管長に支持されて，96歳で生涯を閉じた。

1876年7月19日生まれのジョセフ・フィールディング・スミス大管長は，1970年1月18日十二使徒会会長となり，1970年1月23日93歳で大管長となった。

ジョン・テイラーからデビド・O・マッケイに到る歴代の大管長は，大体62歳から84歳の間で大管長となり，79歳から96歳で生涯を終えている。

これらの8人の大管長たちが，平均年齢73歳でその職を受け，85歳の死で職をはなれていることは興味深いところである。彼らは平均して約12年間大管長の職を務め，その結果大管長の平均寿命は約79歳になっている。

私たちは，大管長というと老齢の人を思い浮かべる。そして，若者は元気よく活発に働き，一方年長者は経験の長さと神との交わりの深さゆえに，安定と力強さと深い知識があると期待するものである。

マッケイ大管長の晩年には，好奇心に富んだ人々，その関係者，あるいはあまり事情をよく知らない人々の間でいろいろな思わくが取りざたされ，しばらくの間話の種になっていた。

会員たちには，デビド・O・マッケイ以外の大管長を知る由もない。こうして，いろいろな思わくは当然混乱を招くものとなるのである。

人々は年齢を問題にした。古代の族長たちは皆かなりの年齢で，アダムも何代もの子孫を治めたほどである。アブラハム，イサク，ヨセフ，そしてモーセは，それぞれ175歳，180歳，110歳，120歳で死ぬまで人々を治めた。彼らはかなりの高齢に達しても，長年の経験により深い知恵と安定感を持っていた。

人々は先例を話し合った。先例通りであれば，初めから明らかにされている方法によって決まるわけである。ブリガム・ヤングは十二使徒会会長として，すべての鍵と権能を持っていた。今日においても，スミス大管長は十二使徒会会長であった。これが主の方法であり，指導者は神聖な主の御手に委ねられているのである。

最初に大管長の交替が起こった時，教会は回復されてわずか13年しかたっていなかった。何世紀もの間，予言者はおろか「示現」さえも閉ざされていた時代があった。教会，啓示，予言者という最も価値ある祝福の基いと思われていた一人の人間の生命が，銃弾によりカーセージにおいて断たれた時，人々の胸は多くの疑問で渦巻いていたことだろう。使徒たちは伝道から戻ると今はなき予言者の遺体を埋め，将来のことを考え始めた。そして，すべての鍵を握る十二使徒会会長がモーセの如く立ち上って人々を導いた時，すべての疑いは煙のように消えたのである。

1844年9月2日号のタイムズ・アンド・シーズンズ紙の社説には，この大管長の後継者について次のように書かれている。

「いたるところで，『ジョセフ・スミスの後継者はだれか』を論じ合う騒ぎがあった。

それに対して我々は，その時が来るまで少しの間待つように，そしてその時にはすべてを告げようと答えるのである。『大きな車輪はゆっくりと回る』今や我々はこう言えるのである。先月の8日ノーヴーにおいて教会の特別大会が開かれ，そこでは何らの反対もなく，『十二使徒』が教会をすべて管理する旨決まり，また大管長会の交替が必要な時には適切な配慮が払われると。そして国外にいる長老たちは，自分たちの知らないことには一切沈黙を守り，すべての人々に知恵ある模範をたれるのである。」（タイムズ・アンド・シーズンズ，第5巻，1844年9月2日英文P.632）

この波乱に富んだ140年間に，10人の大管長が教会を管理し，78人の使徒たちが十二使徒定員会を構成してきた。

私たちは身も心も引き締め，予言者ジョセフ・フィールディング・スミスの導きを受けた多くの指導者に従い，強い意志をもって前進するのである。

この予言者は，人格，威厳，年齢，地位のすべての点から言って尊敬に価する人物である。また最愛の夫人が今朝ほど「手が清く，心のいさぎよい者，その魂がむなしい事に望みをかけない者，偽って誓わない者」（詩篇24：4）と歌われたその人である。彼は造り主の息子であり，神の清い子供である。その高い召しを主から任ぜられたのである。60年もの間王国の鍵を守り，今日への道を築いてきた。また一人の予言者として教会より支持されてきたのである。今や彼は，教会の頭であり大切な土台である主イエス・キリストより，その鍵を全面的に託されている唯一の人であり，予言者である。

主の予言者は「万能選手」になるよう求められてはいない。青年のように，あるいは運動家，資本家，農芸家である必要はない。また音楽家や詩人，芸人，銀行家，医者になるように求められてもいない。ましてや大学の学長，陸軍大将，科学者である必要もないのである。

フランス語や日本語，ドイツ語やスペイン語を話す必要はないが，神よりの御言葉を理解し，天よりの御声を受けられる人でなければならない。

雄弁家である必要もない。なぜなら神御自身が語られるからである。主は弱き人を強きに変えて，その御言葉を与えられるのである。モーセの弱々しい声を力強く変えられたのも，若きエノクに人々を震え上らせたのも主である。なぜならエノクもモーセ同様，神と共に歩んだからである。

主は言われた。「わが声にて言わるるも，僕らの声にて言わるるもみな一つなり。」（教義と聖約1：38）

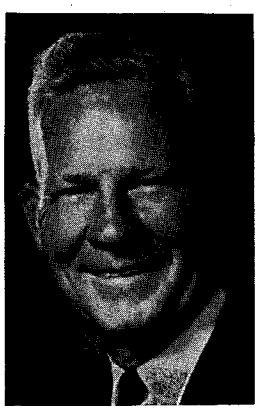
世の必要としている予言者とは，清く，信仰深い人であり，汚れのない名前を持ち神にふさわしいふるまいをし，愛される夫，誠実な父親としての模範を示す人である。

また予言者は，祭司や牧師，長老以上の人でなければならない。彼の声は，新しいプログラム，真理，解答を示す神の御声となるのである。彼は人々から完全無欠を要求されるのではなく，権能を持つ神からそう認められなければならないのである。多くの人が任命されもせず，権能もないのに職を受けたつもりになっているが，彼はそうではない。主と同じように，彼は「律法学者たちのようではなく，権威ある者のように」語らなければならないのである。（マタイ　7：29）

制限を和らげようとする人々の声にも，勇敢に立ち向かう必要がある。自分に与えられ

勇　気

十二使徒評議員会補助
メルビン　J.　アシュトン



数日前，私たちは幾人かの若人と話した時，すばらしいことを経験した。その時にグループ討論ばかりでなく，個人的な話をも行なって過ごした。私たちは若人が質問に対する返答を望んでいるのを知った。若人は指導を受けたいのである。また，彼らは一人前として認められたいのである。私たちは一人の若い女性が非常に率直に次のように言ったので感銘を受けた。「なぜ毎日同じ気持ちではいられないのですか。ある時には，私は世の中で最もすぐれた者のような気がします。しかし，私は希望を失ない，まったく取るに足りない者であると感じる時もあります。」

た神聖な務め，最高の栄えにふさわしい聖任，そして人を召して聖任し，永遠の錠に合う鍵を渡す権能を持っていることを確かに知っている人でなければならない。

古代の予言者たちが，「天に於ても地に於ても，福音を信ぜず教えにそむく者たちに対する証詞を結び固むる権能与えられ，また，誠に神の怒り限りなく悪しき人々の上に注がるる日まで，……権能を与えられ」たように彼にもその権能がなければならない。（教義と聖約１：8—9）また，「何にても地に於て汝の結び固むるところは天に於ても結び固められ，何にても地に於て汝のわが名によりわが言によりて結ぶところは天に於て永遠に結ばるべし。また，何者の罪にても汝地に於て赦すところの罪は天に於て永遠に赦され，また何者の罪にても汝地に於て留むるところの罪は天に於て留められん，と主は言う」と聖句にあるように，すばらしい権能も与えられるのである。（教義と聖約132：46）

求められていることは，パロのそれではなくモーセであり，ベルシャザル王ではなくエライジャ，またポンティオ・ピラトではなくパウロと同じものである。学校やビルを建てる建築家である必要はなく，今も永世にもわたる橋をかけて，造り主と人との隔りを縮める役目をする。

予言者に従った時，世の中には進歩があった。反対に無視した時には，その結果として世は荒れ，死や苦しみがあった。

毎日毎秒，無数の番組が放送されていながら，私たちは日々の務めに追われて，その放送を聞くことが比較的まれになっている。しかし，放送局の方では強力な電波を出していて，私たちが波長を合わせさえすればどんな番組をも聞くことができるのである。

何千年もの間，導きとその時々に合った警告という大切なおとずれが天より絶えず送られており，この強力な放送局の放送にはある不変の法則がある。歴史を通じて，予言者たちは幾度も波長を合わせ，人々にその放送を中継する役目をしてきた。天よりのおとずれは決して止むことがない。

このようなおとずれは，衆目の前においてダニエルにも与えられた。波長をピタリと合わせた彼はこう言っている。「この幻を見た者は，われダニエルのみであって，わたしと共にいた人々は，この幻を見なかった。」（ダニエル10：７）

ダマスコに向かって一団の人々が旅をしていた時にも，天よりのすばらしい出来事が起こりながら，波長を合わせてその示現を受けたのは唯一人の人だった。他の同行者には声だけしか聞こえなかったその出来事は，タルソのサウロになすべきことを告げ，彼の人生を変えるものであった。そしてこれは，多くの人の人生を変える大事でありながら，波長を合わせたのは彼一人だけであった。

一説によると，ロシヤの宇宙飛行士たちは宇宙のはるかかなたを飛んだが，神も天使たちの姿も見なかったと報告しているそうである。

信仰を持たず神を認めない宇宙飛行士たちに対して私たちの言えることは，彼らがいかに遠くいかに高く飛べても，神と永遠のものからはほど遠いということである。霊的なことは狭い心で理解されるものではないからである。

アブラハムは，メソポタミヤの塔で，パレスチナの山で，あるいはエジプトで神と会った。モーセもまた，荒野の奥や紅海で，そして「しばの中の炎のうちに」神を見ている。（出エジプト３：２）ジョセフ・スミスはといえば，ひんやりとしたさわやかな森の中でまたクモラの丘で神に会っている。ペテロが神を見たのは，ガリラヤの海であり変貌の山であった。

願わくば主なる神がこの新しく召された予言者ジョセフ・フィールディング・スミスを支持されんことを。彼は今や「自分の父の仕事」をなそうとし，主の「命のパン」と「生ける水」とを続けて与えようとしている。そしてまた「イスラエルの明かりをともし」，まさに神の代弁者となる人である。主がヨシュアに語った如く，私たちの予言者にも語りかけられんことを祈る。

「きょうからわたしはすべてのイスラエルの前にあなたを尊い者とするであろう。こうしてわたしがモーセと共にいたように，あなたとともにおることを彼らに知らせるであろう。」（ヨシュア３：７）

主が，きょう賛成の挙手をした私たちと，その機会に浴さなかったしもべたちをも祝福したもうように。また私たちは手を高くあげ声をそろえて次のように言ったイスラエルの子供たちの如くなりたいと願う。

「あなたがわれわれに命じられたことをみな行います。あなたがつかわされる所へは，どこへでも行きます。われわれはすべてのことをモーセに聞き従ったように，あなたに聞き従います。ただ，どうぞ，あなたの神，主がモーセと共におられたように，あなたと共におられますように。」（ヨシュア1：16—17）

「イスラエルよ，あなたの天幕に向かい」忠実な心を持ってしっかりと立たれよ。

イエス・キリストの御名により，アーメン

兄弟姉妹の皆さん。私たちは，正義を守る勇気，祈る勇気，忍耐する勇気，幼子のような信仰をもつ勇気など，かつてない精神的勇気を必要とする時代に生きているのである。ここで皆さんと共に，いつも勇気を持ち続ける必要があるこれらの大切な点について，簡単に考察したいと思う。

忠実に正義を守り続けるという点について考えるに，注意の転換，惑わし，迷いに立ち向かう勇気また心がけてよい業に従事する勇気など大切な点として挙げられる。ヨハネによる福音書８章31，32節をみると，絶えず勇気を持ち続ける人々に，恵みが約束されているのに気付くのである。「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら，あなたがたは，ほんとうにわたしの弟子なのである。また真理を知るであろう。そして真理は，あなたがたに自由を得させるであろう。」義の道を歩み続けている若い会員あるいは年配教会員と交わることは何と喜ばしいことであろうか。近隣の若人たちと同様に，遠くのステーキ部や伝道部に住み，神殿結婚の準備を進んで行なっている若人たちを見ることは感銘深いものである。また，伝道や兵役に進んで従事している大勢の人々を見ると，励みを覚える。神の導きを謙遜に求めるならば，神は私たちを神の道に留まらせてくださるのである。私たちの精力を神の道に向けるならば，本当の喜びと幸福の恵みを受けるであろう。神の道は正義の道で，正義の道は幸福の道である。

私たちは言葉と行ないによって偉大な真理を伝えようとする勇気を必要としている。「わたしは福音を恥としない。それは，……すべて信じる者に，救いを得させる神の力である。」（ロマ１：16）ジョセフ・スミスは確固とした信仰をもち神と交通できるという勇気をもって祈ったので，森の中での彼の祈りは答えられたのである。今日，両親と若人はよく意志の疎通を図る手段があり，その手段が使われている。賢明な指導者は家族のつながりを強くするよう励ましてきたので，父親と母親は子供たちをしだいによく知るようになっている。必要な場合に，私たちは若人にチャレンジして，必らず家庭の夕べを計画し，開くよう指導するように求めた。それによって若人は，家族の人々との意志の疎通のみでなく，天父と交通する方法をも学ぶことができるのである。多くの若人が過去にこれを行なってきたので，今日では両親はそれによって彼らを愛するようになった。適切に開かれる家庭の夕べにより，家族の人々のみでなく，神のみたまとも交通することができるのである。

教会の統一社会奉仕計画に関する働きの中で，両親と若人がよく知り合い，また再び一緒に安全な道を歩むようになること以上に満足を与えるものはない。先日私は，ある17歳の少女が次のように語るのを聞いてどんなに心あたたまる思いがしたことであろうか。「お父さんと私はもういつでも話し合うことができます。家庭の夕べのお蔭で私たちは同じ気持ちに戻り，今は非常にうまくいっています」。

子供にとって最もすばらしい恵みの一つは父母が愛し合う家庭で受けられる恵みである。夫と妻の愛は暖かく，誠実なものでなければならないのである。明らかで，誠実な愛は，子供たちに非常に貴重な環境を提供する。子供たちはそこから愛について学ぶのである。ほかの人々と熱心に意志の疎通を図ることにより，一体感を深め，また人々は，それにより私たちが関心をもっていることを知るであろう。

愛とあわれみは時代おくれでも，流行おくれでもない。それらは理解と幸福とを築く徳である。両親および教会の指導者との密接なつながりを感じずに神の戒めを守るのは，若人にとって困難である。子供や仲間の長所を捜そうではないか。破壊するのではなく築きあげるのが主の御心である。私たちの責任は肯定的なことを伝え，肯定的なことを強調することにあり，否定的なことを勧めることにあるのではない。

私たちには，忍耐と，理解と，あわれみを持つ勇気が必要である。今日の複雑な社会の中で悩んだ若人たちから「私たちを見捨てず，私たちを責めず，私たちに腹を立てないでください。私たちをあわれみや困惑，あざけりに合わせず，むしろ私たちに道理を教え，模範を示し，あなたのよい点を見せてください」という願いが出されているので，私は両親と指導者にこうするようへりくだって願うものである。私たちは十代の若者から「帰り道を見つけさせて下さってありがとう」とか「しっかり歩めるようにして下さってありがとう」という感謝を述べられるように生活し，導く両親や指導者になろうではないか。私たちは忍耐と理解によって友を導く方法を学ばなければならない。ふさわしい時に，ふさわしい場所で励ましを与えなさい。先日，一人のナバホインディアンの立派な宣教師を訪れて話をし，すばらしい感激を受けた。その時彼は言った。「私が現在伝道している主な理由は，私が少年の時，スペンサー・W・キンボール長老が家に入って来て，私の頭をなで，私の手に銀貨をにぎらせて『これを取っておき，伝道のために貯金を始めなさい』と言ったからです。」その模範に示されているのは，認知，激励，チャレンジおよび模範など，リーダーシップに肝要なものである。集団を主のみもとに連れ帰るために，私たちは忍耐と愛をもって一人一人を導く方法を学ばなければならない。立派な指導者はあきらめないものである。立派な両親はあきらめないものである。立派な若者はあきらめないものである。

私たちには幼子のようになる勇気が必要である。「この故に，悔い改めて幼児のごとくわれに来る者は，われことごとくこれを受け容るべし。かかる者はすでに神の王国に居る者と同じなればなり。」（Ⅲニーファイ　９：22）私たちには子供のような愛，悔い改め，祈りおよび信仰が必要である。

数週間前，はるか南アメリカのウルグアイに住む末日聖徒の家族と共にひざまづき祈ったことは，ほんとうに心暖まる経験であった。その時11歳の少女は私たちを思いやって，家族の祈りにさそってくれた。彼女が自国のスペイン語で天父に親しく祈りをささげた時，私たちは少女の心に感動した。彼女の愛らしい祈りが終り，私たちは彼女の父親に「彼女は祈りの中で神殿について何と祈りましたか」と尋ねた。

父親は「娘は『父なる神様，私がいつか神殿で結婚できるように，充分に正しい生活を送れるよう助けてください』と祈りました」と答えた。

この汚れない信仰と日々の誠実な準備により，彼女の心からの望みはかなえられるであろう。

「誠に，主かくの如く言う。その罪を捨ててわれに来り，わが名を呼び，わが声に従い，わが誡命を守るあらゆる人々は，わが面を見てわれ在るを知ることあらん。」（教義と聖約93：１）信じる者にとって，何とすばらしい約束であろうか。信じ続ける者にとって，何という恵みであろうか。私たちに恵みを与えてくださるよう天父に勇気をもって求める以上に効果的で謙遜な祈りがこの荒廃した時代にあるだろうか。勇気をもって生きる時に，私たちは同じような毎日ではなく，一歩一歩しだいによくなる日々を過ごすのである。私は，主の戒めを守ることにより愛と勇気を示すように，この時代の人々に希望するものである。

私はこの教会が確かにイエス・キリストの教会であることを皆様に証する。私たちが目的をもって主の道を歩みつつ，豊かな人生を保証する主の御業の中に恐れずに留まるよう，へりくだって祈るものである。イエス・キリストの御名により。アーメン

ジョセフ・スミスを知る

七十人最高評議員
ポール H. ダン

全世界の兄弟姉妹の皆さん。これはすばらしい機会である。私は常に考えており，心から信ずることを厳粛に証するために話の機会が与えられることを感謝している。

私はマサチューセッツ州ボストンの北方約210キロにある美しい場所を訪れたことがある。バーモント州，ウィンザー郡の起伏した，緑の丘に囲まれたその場所は，主の予言者ジョセフ・スミスの出生地である。

その敷地には，現在案内所と展示センターの二つの建物が建っている。

最近，私たちは娘のケリーを連れて，その記念すべき場所を訪れた。娘は現在まで幾度もそこへ行き，いつも安らぎとみたまを強く感じてきた。彼女はその建物を出る時には必ず訪問者署名帳に署名し，感想欄に感想を書いてきた。

この日，彼女は「教会は私の生活の内にあって最もすばらしいものです」と書いていた。私と妻は本当に喜びに満たされた。どうしてであろうか。それは，教会と儀式を伴なう福音が「生命に至る道」であり，私たちはその教えに従うことにより，皆が求めている真の喜びと幸福を家族で見出しているからである。

素朴な信仰をもった一人の少年が「いずれの教会が正しいか」という非常に大切な質問をしたのは，丁度150年前の早春であった。1820年のあの美しい春の朝に，父なる神と御子イエス・キリストは少年の前に姿を現わされた。彼の名は決して消えることはないであろう。その少年こそ，この神権時代の最初の予言者ジョセフ・スミスであった。

過去二年間，私たちはニューイングランドに住み，予言者の誕生地をしばしば訪れた。主はその場所を神聖にされ，私たちはジョセフ・スミスが生まれた場所の空にそびえる花こう岩の記念塔を見上げるといつも，心は喜びに満ち，みたまは「彼は本当に予言者であった」と我々にささやくのである。

今朝私は皆さんに予言者ジョセフ・スミスをもう少しよく知る機会をさしあげたいと思う。私はジョセフ・スミスの業績について皆さんに説明するつもりはなく，人であり，聖見者であり，予言者である彼について話したいと思っている。彼がどのように人生を送りなぜそのように送ったかを知ることは，私たちにとって大切であると思う。なぜならば，それを知ることにより，私たちは「現代の神権時代の君」，すなわちブリガム・ヤングが「かつて生を受けた人のうちで，イエス・キリストを別にして最も優れた人」（ブリガム・ヤング説教集，英文P.459）と言ったジョセフ・スミスについてさらによく知ることができるからである。

主の光を輝かしてきた人生とは，あらゆる人をさらによくそれを知りたいという望みに駆り立てるものである。このような人生はジョセフ・スミスの人生である。彼は人々に奉仕をし，愛ある人生を送ったのであった。私たちは確かに彼が永遠の天父の息子のうちで最も高貴なものの一人であったと断言するものである。

ジョセフ・スミスは背が高く，体格がよく身長は1.8メートル以上，体重は95キログラムほどあった。血色がよく，髪は褐色で，人の心を見通すような青い目をしていた。彼はリスのように素早く，ライオンのように強く，小羊のようにやさしかった。ある青年はジョセフ・スミスについて言っている，「ジョセフはひげをはやさず，また礼儀正しい人でありながら，まったく人を圧する容ぼうでした。」ある若い女性は，ジョセフの威厳ある風さいを示す写真はなかったと語った。彼の顔つきや顔の表情は気分によって変わったので，だれも彼の本当の顔つきを知ることはできなかったと彼の妻は語った。

ジョセフ・スミスの個性，経験および性格をさらに深く調べると，キリストのような性質をもち合わせていることがわかる。ジョセフの同僚たちは，彼が神に仕える時には神々しいと語っている。また彼らはジョセフの予言的な機知，音楽や詩，演劇を愛する気持ち，特に彼の心からの笑いを好んだのである。彼らはいつもジョセフ・スミスがペースを変えるのが巧みなのに驚いた。ジョセフ・スミスは聖典あるいは外国語の勉強をやめてすぐ，まり投げやレスリング，幅飛びをし，また再び勉強をすることができたのである。彼は楽しい活動に加わるとすぐに楽しそうな様子を示すので，皆彼は楽しいのだと分かった。しかし同時に皆は彼が不名誉あるいは下品なことを嫌うのに気付いた。彼はおりに臨んで激しく人を責め，いつもその後一層の愛を示すことができた人である。（教義と聖約 121：43参照）「私はこの教会を指導する間，適切に指導しようと決心しています」と彼は語った。

ジョセフ・スミスは荒けずりで，あけっぴろげな人であった。彼は肉体労働を喜び，体を強く保つことは神より与えられた原則であると教えた。ノーヴー神殿建築中には，しばしば石切場で働いたことであろう。多くの人々は石切場や森の中，ほし草畑において彼のそばで働きながら福音の回復について学んだのである。

ジョセフ・スミスはイエスがキリストであることについて強く，確固とした証を持ち，彼が知っていることを他の人に述べる機会を決して見過ごさなかった。彼が語る時には，あたかも地が震えるようであった。また，説教をしているジョセフ・スミスの姿は天で生まれた人のようであると言われた。彼はみたまにより語ったのみでなく，記録の示す所に

よると，生涯，時に応じてあらゆる神の賜を得たのであった。また「私の主義は神がお命じになる時に命じられたことを行なうことである」という言葉の中に一つの深遠な教えがあるのである。

神の命令を果たす際に，ジョセフは，脅迫や腕力によらず，柔和と温情と偽らざる愛とによって人々を動かす人であり，カール・サンドバーク[1]が「ビロードと鋼」と言ったように，たぐいまれなキリストのような性格を持っていた。もし世の人々が神の戒めを学び，ジョセフ・スミスのように生活するならば，この世は何とすばらしい世になることであろう。

私たちは自分が愛するもののようになる，とマッケイ大管長はよく語っていた。ジョセフはキリストを愛したのでキリストのようになったのである。「私は全能者の矢筒の中のよく使われる矢になりたい」「私はいつも平和の言葉を語る」「イエス・キリストは私の偉大な教師である」とジョセフは語った。

ジョセフは私たちのうちのだれかに似た人であったが，今日の私たちのようではなく，言いようのない苦難と迫害に耐えた人であった。彼は4つの州から追放され，6人の子供を失い，タールを塗られて羽根をつけられた。しかし彼は非常に勇敢に人々を指導し，次のように言った。「私は真実であると知っていることを否定するわけにはいかない。」

彼は38才までに一千年生きたとブリガム・ヤングは言っている。また彼は襲われ，打たれたが「ジョセフの顔はオイル・ランプのやわらかな輝きのように見えた」とリディア・バイリーは語っている。

ジョセフはモーセのように導き，ペテロのように語り，パウロのように書いた人である。ウィルフォード・ウッドラフは「エノクの心のように，ジョセフの心は無限に広がり，ジョセフの精神を理解できるのは神のみである」と語っている。

福音の知識と理解において，彼は卓越していた。ジョセフ・スミスは，将来のことに関して，1,500の話を記録に残した。これらのうちの幾百かはすでに成就し，また私たちは一生の間にさらに多くのことが成就されるのを見るであろう。彼のどの著作物を取っても，聖書全体から知れる以上に末日についてよく知ることができる。ジョセフの著作物，手紙，話は非常に多方面に及んでいるので，一人でそのような短期間にそれほど多くのことをするのは不可能であろう。モルモン経，モーセおよびアブラハムの書，教義と聖約など，彼が啓示によって記録したものは合計830ページ（英文）に及び，彼の自叙伝，演説，覚書きは合計3,200ページ（英文）を越えている。

私たちは地上で最も幸福な民と言われてきた。私たちは，ジョセフ・スミスにより明らかにされた真理に沿って暮らすことにより，多くの幸福を得ている。

神と天使により教えを受けた人がいるならジョセフ・スミスこそその人である。彼は片足を地上に置き，片足を天に置いて，霊的に二つの世界に住んだ人物である。エドワード・スティーブンソンは「ジョセフは無限の知識を持っていた」と語っている。またウィルフォード・ウッドラフは「ジョセフ・スミスは永遠の知恵の流れ出づる知識の泉のようであった」と語った。またパーレイ P. プラットは「ジョセフ・スミスは永遠を見つめ，諸天を見通し，よろずの世界を理解することができた」と語った。

ジョセフ・スミスは，この偉大な国アメリカは主の導きのもとに人に与えられた選ばれた地であったと教えた。そして彼は，この偉大な国家の基礎を築いた先祖によって果たされた業が非常に重要なものであるという強い証を持っていた。彼は言った「合衆国憲法は栄ある標準であり，神の知恵によって定められている。それは天の標準である。それは，のどがかわき，疲れた時に得られる涼しい日陰と大きな岩から流れ出る清らかな水のように，自由を楽しむ特権を持つすべての人々のためのものである。それは，あらゆる国から来る人々を焼けつくような陽の光から守る大木のようなものである。」（教会歴史記録，第3巻，P.304）

ジョセフ・スミスは決して軽い荷を求めずむしろ強い背をもてるように祈った。彼は「おお，主よ，私は何をなすべきでしょうか」と絶えず祈る，真の予言者であった。彼の祈りを聞いた人々は彼の熱意に驚き，諸々の天は文字通り開かれるということを知ったのである。人々はジョセフ・スミスが次のように教えた時にその意味を理解できた。すなわち「神の御性格を確かに知ること，すなわち人が互いに語り合うように，神と語り合えると知ることは福音の第一の原則である」。（教会歴史記録，第6巻，P.305）

最もすばらしい発見は人が神を見出す時であるとある人が言っている。ジョセフ・スミスは神すなわち個性をお持ちの，愛情深い御父に関する真の御性質と知識を漏れなく世に伝えた。また神は私たちの御父であり，キリストは神の御子であり，私たちの長兄でもあると教えた。その当時のキリスト教会は「私たちは神を信じる」と言っていたが，ジョセフ・スミスは「私は神とキリストを見た。御二方は私に実際に話しかけられた」と語った。彼は示現を見たと言ったために迫害を受けたが，それは真実であった。彼は神がおられるということを私たちに教えたのみでなく祈りに喜んで答えられるとも教えたのである。

祈りは魂の望みというすばらしい讃美歌がある（176番）。もしジョセフ・スミスが私たちにほかになにも与えなかったとしても，彼は私たちに望みはかなえられ，心は清く汚れないものにできるという模範を示したのであった。ジョセフは殉教前にカーセージへ行く途中語った「わが良心は……いささかの咎めもなし。」（教義と聖約135：4）「われは死を恐れず。」彼は主の御前に自分の全生涯をくまなく見られてもはじない者のように語った。

1844年の運命の日に，ジョセフは顔に色を塗った150名ほどの暴徒によって殺された。彼が死んだ時，次のような記事が書かれた。「ジョセフ・スミスが襲われたことにより，モルモン教の支えは無くなった。彼らはやがて四方に散り，大社会の中にしだいにのみ込まれてゆくだろう。」この会衆の皆さんも，これを聞く数百万の人々も，この言葉が誤っているのを知っている。

神の敵は予言者を殺すことによって真理を滅ぼしたと確信したが，当時よりもさらに強く大きくそれは続いているのである。それは神の御業であるので不滅であり，神の御業であると知ることにより，私たちは神の選ばれた僕ジョセフ・スミスが聖い，真の予言者であると知るのである。彼は言った，「私は真理の原則あるいは力と徳とを得たが，それらは死んだ後にも続くものである。」

ジョセフは過去においても現在においても予言者であるというのが私の個人的な証である。彼の精神的感化は相次ぐ予言者に及び，今はジョセフ・フィールディング・スミスに留まっているのである。イエス・キリストの御名により。アーメン

1. カール・サンドバーク，アメリカの詩人，伝記作家，1878—1967。

よい とりひき

春でした。ユタのカナブをとりまく赤い砂地の岩山は，あたたかい日ざしの中で美しく輝いていました。少年たちは，とりでを10キロメートルこえてインディアンキャンプにお使いに行くようお父さんからたのまれたので喜んでいました。家にいればしなくてはならない野菜畑のたねまきのかわりに，緑色のルビアのしげみをとおりぬけて，自分たちの小馬を走らせるなんてすばらしいことでした。

少年たちは，インディアンととりひきするための馬を引いていきました。春のやわらかな空気がただよい，少年たちはまわりの美しいけしきを見ながらただだまって行きました。生きていることはすばらしいことでした。少年たちが馬にのってキャンプについた時，フランクという名前のナバホインディアンの酋長が出てきてあいさつをしました。この酋長は前に，少年たちのお父さんに馬がほしいと話しておいたので，馬を引いて来るのを待っていたのでした。フランク酋長は少年たちが馬からおりるのを手伝ってくれました。そして，とりひきのためにつれてきた馬をちよっと見てから，少しはなれたところに行って毛布を何枚かもってきました。

その毛布の色といい柄といい，かくべつ美しいものでしたが，10歳になるジェイコブは弟ウォルターに，ぼくたちは子供じみた行動をとってはいけないし，このとりひきを成功させなければいけないと言いました。二人は頭をふりました。ジェイコブは酋長に，つれて来た馬はもっと高いのだと言いました。

年老いたインディアンはちょっとためらいましたが，野牛のひざかけを二枚と毛布を何枚かもってきました。少年たちはその美しさに目をみはりました。そして，二人にさしだされている毛布の量の多いのにおどろきました。二人は毛布やひざかけを巻いて小馬の背にしょわせました。二人はとりひきのできばえがよいのに気をよくして，胸をはっていきようようと帰ってきました。

二人が家につくとお父さんが待っていました。お父さんは，小馬の背から重い荷物をおろし，毛皮をひろげて見ておどろいたようでしたが，何も言いませんでした。お父さんは注意深くひざかけと毛布を見て，それを二つに分けてまとめました。二人の少年たちはお父さんが何か言ってくれるのを待っていましたが，お父さんはだまって手をうごかしていました。品物を調べ終ると，お父さんは分けておいた一方の毛布をていねいにまいて，二人がしてきたとりひきの一部は返さなくてはならないといいました。

二人はもどってきたのをどうやって説明したらよいか考えながらインディアンキャンプに行ったので，その日は何となくゆううつでした。でもフランク酋長はにっこり笑いながらあたたかく二人をむかえてくれました。酋長は巻いてある毛布を年老いた手でとり，二人の少年たちが何も言わないうちにこういいました。「わしはきみたちがもどってくることがわかっていた。わしはきみたちのお父さんがそんなにたくさん受取りはしないだろうと思っていたよ。きみたちのお父さんはわしらの世話をよくしてくださる。あの方は，わしらにとってもお父さんなのだよ」

かれらの父，ジェイコブ・ハンブリンが，本当に賢明で人々に愛されているということを知った時，二人にとって春の日は急にまえのように，いえそれ以上にもっと美しく輝やかしいものに感じられました。

（ジェイコブ・ハンブリン（1819～1886）は，インディアン地域を担当した使徒として有名です）

「母の日」

ルーシー・パァー

ナバホスクールでの一週間のうちで最高の時間だとスリムガールがおもっているのは，美しい先生が本だなからどれでも好きな本を選んでもよいとおっしゃるときでした。午後からはずっと，生徒たちはまだ知らないことや見知らぬ場所について読んで時をすごすのでした。

スリムガールはえらんだ本をていねいに，机の上におき，少し間を置いてからページをめくり，特別な日について読みはじめました。はじめのページの上の方に「母の日」とかいてあり，女の人の絵がのっていました。その女の人の服装はスリムガールのお母さんが着ているベルベットのブラウスや，たけの長い重そうなスカートとはずいぶんちがったものでした。でもその女の人の愛と親切にみちた表情は，スリムガールのお母さんが，小さな子供たちと話しているときに，しばしば見かけるあのやさしい表情と同じでした。

「お母さんの日」とその本には書かれていました。その本を読みつづけていくうちに，スリムガールの胸は喜びでいっぱいになりました。愛のこもった花束やおくりものをあげて，お母さんをたたえるために定められた特別な日なのです。もしそのようにたたえられる人がいるとすれば，それは他ならぬ彼女の，やさしく忍耐強いお母さんだと彼女は思いました。

「私もやってみよう」今までスリムガールはお母さんに，どんなに愛しているかを言って，自分なりにその日を特別なものとしていました。しかしただ言うだけでは十分ではありませんでした。スリムガールは何をすることができるでしょう。彼女は本にでている絵

のような花束をおくることはできませんでした。それに，本の中のお母さんがうけとってニッコリしているようなすばらしいおくりものをすることもできませんでした。読んでみると，それはみな彼女の学校の向こうにある交易所よりもはるかにすばらしい店で買ったものでした。

でも，きっとスリムガールにできることがなにかあるはずです。

もし，スリムガールが注意してさがすならきっと家のまわりの丘や岩の間に野の花をいくつかみつけることができるでしょう。そしてもう一つのおくりものとして，お母さんがつくりかたをおしえてくれた一枚の皮でつくるくつを，今までにないほどに美しく，ないしょでこしらえることもできるのです。お母さんのためにそれをしてあげなくてはという気持ちが強くなってきました。ためらいがちにスリムガールは大きな机のところに行き先生がふりむくのを待っていました。「紙を一枚くださいませんか。私のお母さんのために……」スリムガールははずかしそうにそう言うと，すばやく息をすってから「お母さんのためにカードをつくるんです」といいました。

根気よくクレヨンで色をぬり，スリムガールは本にある絵から，花とふちかざりをうつしました。そしてスリムガールがいつもお母さんにたいしておもっている愛のことばを内側にかきこみました。

びっくりさせるために，ないしょで一枚皮のくつをつくるのに何日もかかりました。明日は学校も休みで，ついにスリムガールが計画していたことや今までの準備が全部おわるのでした。熱意と心配で心が乱れ，スリムガールはよくねむれませんでした。本にある絵のようにすばらしくできなかったので，それはまったくばかげたものとなってしまうのではないかと思いました。

次の朝，スリムガールが目をさますと，ちょうど東の空が明るくなっていました。春風のようにかろやかに，しかし息をこらしてこっそりと，小屋からぬけだしました。丘をよこぎりヨモギやたまじゃりのあいだにスリムガールは花をさがしました。それはしるしのようでした。スリムガールがいままでたててきた計画は結局成功するのだというしるしのように彼女には思えたのでした。スリムガールはそんなにも短い時間で手いっぱいに花がつめるなどとは夢にも思っていませんでした。スリムガールは，花を新鮮に保っておくためにボールにいっぱい水をくんでおいた小屋のわきのしげみの日よけ場所にいそいでもどりました。ボールのよこにスリムガールは，一枚皮のくつと，きれいに色のぬられたカードをおきました。なんとすてきなのでしょう。スリムガールのおくりものは，本の中の絵にそっくりとはいかないまでもかなり似たようなものでした。

スリムガールはにっこりして立ちさりました。うっとりしている暇はありません。けさなのですから。

スリムガールは，できるだけ静かに火をおこして朝ごはんのしたくをしました。家族のみんながおきて来た時には，おいしそうなにおいがたちこめていました。

あつい髪の毛をかきむしりながら，おとうさんがはじめに小屋から出てきました。「おお！」おとうさんはスリムガールがかまどにかがんでいるのをみていいました。「どうしたんだいこれは」

おとうさんのうしろにお母さんが立っていました。「まあ，おどろいた」お母さんは，スリムガールがほとんど朝食の準備を終えてしまっているのをみておどろいていいました。

はずかしそうにスリムガールはおくりものをさしだしました。「お母さんのために，愛と感謝をこめておめでとう」

花束を見たときお母さんの目はなみだでうるんでいました。そしてお母さんは指で，一枚皮のくつをなでていました。「なんてすてきなんでしょう！」とお母さんはいいました。

「きょうは私が小屋のまわりのお仕事をします。お母さんは，きょう一日仕事を忘れてすごして下さい」スリムガールがこういったとき，お母さんのほほになみだがこぼれおちました。

お母さんはなみだをながしながらほほえみました。「何をしたらいいのか，まったくけんとうがつかないわ」それからお母さんはうなずいて言いました。「妹を訪問しようかしら，お店にいってぼろになってしまった毛皮と引きかえに，苗木をいっしょに見つけることができるわ。娘がくれたこの日をすごすにはこれが一番すばらしい方法だと思うわ」お母さんは，あたりをみまわしてからつけ加えました。「でも，きょう一日中，出歩くつもりはないわ。きょうはずっと家ですごしたいの」朝食の間中，お母さんは，幸せそうにほほえんでいました。

お母さんのための特別な日があるということはすばらしいことだとスリムガールは思いました。

敵を招待するパーティ

学校での休み時間でした。明子と恵子は階段にこしかけて，女の子や男の子たちがいっしょに遊んでいるのを見ていました。二人の他の子供たちからいっしょにあそぼうとさそわれたことはありませんでした。明子と恵子は双児なので，新しい学校でまったくのひとりぼっちにならずにすみました。でも二人はおたがいにさびしい思いをしていることを知っていました。そして二人は，自分たちにはお友だちができないのではないかと思ったりしました。二人でよく話すことはおとうさんの仕事のつごうで引越してくるまえにいた学校での楽しい思い出でした。

明子と恵子は，学校中で一番人気のあるのは美しいまゆみという女の子だという意見に一致していました。二人は，もしまゆみとお友だちになりさえすれば，他の子たちは今しているように二人をさけたりいじめたりしなくなるにちがいないと思いました。でもまゆみは，毎日いろいろな方法で二人をいじめ，なんとかして他の子供たちと友だちにならないようにしているかのようにみえました。

その晩夕食がすむと，お父さんは夕刊をわきにおいて，部屋のむこう側でテレビにも目をくれずふさぎこんでいる二人を見て頭をふりました。それからまたお父さんは新聞を読むようなかっこうをしましたが，今度は頭をたれて深く考えこみました。やがてお父さんはひとりうなずくと，二人の方を見て自分のところへ来るようにいいました。

「さあ話してごらん」とおとうさんはいいました。「いつも幸せそうなおまえたちに何かわるいことでもあるのかい。」二人は顔を見合わせたきり答えませんでした。少しの間をおいて，お父さんは他にいろいろな質問をしました。「学校で何かこまったことでもあるのかい。」「何かとてもむずかしいこと？」「私たちがひっこしたことが悲しいのかい。」

はじめは何の答えもありませんでしたが，恵子が自分たちのさびしい状態を話しはじめると，明子もいきせききって話し出し，二人の話はつきないようでした。お父さんは，二人が学校でお友だちから仲良くしてもらえないという話をじっと聞いてくれました。二人の話がようやく終ると，お父さんが言いました。「お父さんにいい考えがある。パーティをひらこう。」

これを聞いた明子と恵子は大喜びでアイスクリームやケーキや赤い風船の話をしていましたが，しばらくするとこう言いました。「だれをパーティに招待するの」「私たちには友だちなんていないわ」二人は大きな声でそう言うと，また泣きはじめました。

お父さんは目を輝かせてこう言いました。「招待するお友だちについては何も心配いらないよ。このパーティは敵を招待するパーティなんだから。私たちはおまえたちのクラスや学校で，仲良くしてくれないお友だち全部をこのパーティに招待したらどうなるかを見るんだよ。」

そして明子と恵子はそのとおりにしました。招待された人のうちほとんどの人が来ました。パーティが終って帰る時，みんなは今までこんなにすばらしいパーティに出たことがなかったといいました。

このパーティはとてもすばらしいものでしたが，二人はもうこのような敵を招待するパーティをする必要はありませんでした。そして，まるで魔法にでもかかったように，新しい学校でお友だちができたため，だれを招待したのかわからないほどでした。とくにまゆみとは親しくなりました。

勇敢な両親を求む

管理監督会第二副監督
ビクター L. ブラウン

箴言に「子をその行くべき道に従って教えよ，そうすれば年老いても，それを離れることがない」（箴言22：6）という句がある。ジョシュ・ビリングズはこの真理を「子をその行くべき道に従って育てるため，あなた自身その道を進め」という言葉で言いかえた。あなた自身がその道を進みなさい。私たちのうちどれほど多くの者がその道を進んでいるだろうか。

私は国内のある著名な教育者の話をテレビで聞いた。その主題はマリファナについてであった。彼女はマリファナの使用は他の多くの社会的な慣習ほど悪くはないと語った。それには若者たちがマリファナを喫煙するのも悪くないという意味を含んでいる。政府で責任ある地位につき，ラジオやテレビを通じて家庭に大きな影響を及ぼす地位についているある人が最近「私がカクテルパーティーで使う言葉は，家庭や教会で使う言葉とは違います。私はこれが偽善的であるとは思いません」と語った。また先日ある地方で，父親たちが騒ぎを扇動し，規制をのがれるためにパトカーのタイヤの空気を抜き，そのことを息子たちの前で非常に楽しそうに話したそうである。

また今日上映されている映画の内容について批判が起こると，映画製作者は世間が買うものを製作しているに過ぎないと反論する。最近地方で上映された21本の映画のうち，不快あるいは不都合な内容による入場制限を受けなかったのは3本だけであり，しかもこれらは映画製作者側で決めたものであった。親の監督だけに任せられている全年代向けのある映画で，酔っ払いがあさましい欲望から女性のブラウスをはぎとった一場面があった時，観客は大声で笑った。もしこれが私たちおとなの楽しむ娯楽であるならば，一体全体私たちはどのようにして子供たちに道徳について教えることができるであろうか。

十代の時，私は教会の活発な指導者の下品な話を聞いたことがある。私は聞いた話をまったくよく忘れる男だが，その話だけはまだ憶えており，それを話した人の名前も憶えている。私たちはおとなとしてどのような模範を示しているだろうか。カメレオンが色を変えるように，環境に応じて品性を変えているのではないだろうか。周囲で使っている言葉を使っているのではないだろうか。いやしい動物本能に訴え，作家，俳優，私たちを共に低俗にする映画に行っているのではないだろうか。その時に大衆が行なっているからといって法を犯しているのではないだろうか。いかなる社会的な圧力があろうとも，自身の主義を堅く守れるほど意志が強固であろうか。以上は，もし私たちが子をその行くべき道に従って教え，私たち身身がその道を進もうとするならば，自問してみなければならない質問である。

教会の至る所で，私はステーキ部長と監督から「もし両親に問題がなければ，若者たちにも問題がない」という言葉をよく聞く。一民衆として，私たちは昨日まったく受け入れられなかった標準を今日は受け入れる。たとえば，言論の自由を口実にして読まれたり，聞かれたりする，不潔でみだらな言葉が，いわゆる上流社会にしだいに受け入れられつつある。好色文学は多くの地域で産業の中に取り入れられるようになった。ワシントンの大病院の主任精神療法医は言っている，「正常な少年少女が好色文学にさらされるとやがて同性愛に陥るでしょう。皆さんは健全な少年少女を迎えることができますが，彼らは異常な環境にさらされて，その後一生涯の彼らの習慣を身につけることになります。」

ある人は「同性愛に陥るのがなぜ悪いのですか」と言う。最近ある教会の指導者は同性愛の二人の男を結婚させた。事実，世界中の多くの新聞がほとんどその記事を載せた。この道徳的退廃の責任はだれにあるだろうか。子供たちだろうか。否，その責任は，新聞雑誌売場で卑わいな新聞を売ったり，海外にそれを放送するのを黙認する私たちおとなにある。

ある時，私は妻が買物を終えるのを待ちながら，新しいスパーマーケットでマガジンラックにある雑誌に目を通した。ところが一，二を除いて，すべての雑誌の表紙と特別記事の見出しには，表現の違いこそあれ，性的なものが取扱われていたのである。これは住宅地区の家族向けの店においてのことである。もし私たちおとながこれを買わなければ，これらの雑誌はいつまで発行されると思うであろうか。何が起こってこれ程にまで私たちの標準が侵されているのだろうか。それは一晩で起こったのではない，非常にゆっくり，非常に巧妙に起こったのでほとんどの者がそれに全然気付かなかったのである。

「西欧人が個人の力，運命の決定者，行ないの最後の裁き人である神への信仰を失ない始めた」時に，この道徳の退廃が始まったというデビド・クレインの意見に私は賛成である。またその時に，人々は次のように考え始めたのである。「神が人を創造したという考えは古くなった。我々は進化したのである。……生命は多少偶然の所産であると考えられ始めた。罪は相対的な，社会学上の問題となり，多くの者にとって単なる虚構となった。……人はまだ善悪の存在を信じ，間違いを犯せばそのことができた。……しかし人はそれで神を怒らせたとか，神の罰をこうむるとかはもはや信じなかった。……

このように生きることと，神が命じられるので正しく生きようとすることとの間にははなはだ相違がある。

神に対して犯される罪は『反社会』的なものになった。宗教上の罪は犯罪になった。…正直は最善の策ということから盗みは悪いこととなった。皆は友へ不誠実にならないように努めた。なぜならば，それにより友情がそこなわれるからである。もし皆が礼拝に参加したとしても，伝統を重んじるためであった。徳はそれ自体説明できない報酬であり，それ以外のものではない。」（デビド・ラファエル・クレイン「神に代わるものはあるか」リーダーズ・ダイジェスト，1970年3月P.51-52）

この種の哲学は不変ではない。それは時と所と情況に応じて変わる。それは人々の気まぐれと習慣と哲学によって変わる。まったく社会が腐敗しても自分の主義は変わらないという確信をもっている人は一人もいないのである。私たちの住んでいる社会では放任が受け入れられ，多くの人々は若者だけでなく自分自身のためにもしっかりした指針を定めようとしない。私たちが生活する規則と標準があるということ，なおかつこの標準はしっかりした基礎の上に築かれていることは非常に大切である。標準には意味があるにちがいない。クレイン氏が言ったように，「もし親が若者に人生は無意味であると教えたならば，どうして幻覚剤を飲んではいけないと言えるであろうか」。(同上，P.53)

もしこの傾向をなくさなければ，将来悲劇が起こるに違いないのである。たとえば，大帝国の民は進むべき道を間違えたので，その帝国は滅んでしまった。ではそのためになすべきことは何だろうか。若者の生活に関心をもつおとなは手を講じてその人に影響を及ぼそうとしているが，若者の生活によきにつけあしきにつけ最も深く影響を及ぼす人は両親である。私たちがもし子をその行くべき道に従って育て，私たち自身その道を進もうとするならば，イエス・キリストの福音の根本的で，飾りのない，完全で，不変の真理に立ち返り，生活の中にそれらを生かさなければならないのである。私たちが今日必要としているのは，イエス・キリストの福音に改宗し，喜んでそれを応用し，信じ，生活に生かし，正直に什分の一を払い，隣人や債務者に親切であり，教会の幹部を実際に支持し，子供が主を愛するように子供に福音を教える両親である。

私たちが必要としているのは正義のために立ち上がり，声高らかに語り，また国家，地方政治に実際に参加する勇敢な両親である。また衣服や言葉使いやふるまいが控え目な両親である。またイエス・キリストの福音を恥とせず，子供たちに私たちの天父がおられること，私たちは天父の霊の子であること，天父は大きな栄ある目的をもって地上に私たちを置かれたこと，天父は私たちを愛しておられること，天父は私たちに自由意志と共に戒めを与えられたこと，私たちは自分自身の行ないに基づいて報いと裁きを受けることなどを教える両親である。そして神から与えられたすべての戒めを何らほかの理由がなくともその理由だけで受け入れ，主のほかになにものをも神とせず，姦淫せず，盗まず，隣人の妻や夫をむさぼらず，隣人について偽証しない両親，心をつくし，精神をつくし，思いをつくして主なる神を愛し，自分を愛するように自分の隣り人を愛する両親なのである。

これはこの世にあっても，来たるべき世にあっても，人の救いへの唯一の道であるというのが私の確信である。このことをイエス・キリストの御名により証する。アーメン

＜閉会説教＞

平和への祈り

大管長　ジョセフ・フィールディング・スミス

兄弟姉妹，我々はそれを大切にしさえすれば，利益となる数々のことを聞き，このすばらしい一日を過ごしてきた。

今や我々は画期的な総大会の幕を閉じようとしている。我々は共に集い，新しい大管長会を支持し，主の僕，予言者達の口を通して主から勧告と指示を受けた。

我々は「みたま」にあずかってよいことを得，主からのみもたらされる力を受け，信仰と証をさらに強くした。

我々は主を礼拝し，主に対する愛とその大義への献身を確認するためにまた次のような戒めを守りたいと望みつつやって来たのである。「……汝心を尽し，勢力と思いと体力とを尽して主なる神を愛すべし。またイエス・キリストの名によりて神に仕うべし。」(教義と聖約59：5)

私は大会の諸目的が果たされたと感じている。我々は今や天父の御業をうち立てるために新たに身を献げ，天父の子供たちすべてを祝福するために力を尽すという決意をもって，各方面へいで行く用意ができている。

今こそ，「あなたがたの光を人々の前に輝かし，そして，人々があなたがたのよいおこないを見て，天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」(マタイ5：16)と言われた主の勧告に注意を払おうではないか。

私はあなたがたを祝福し，次のことを約束する。すなわち，神はその民と共にいまし，我々が従事している業は，主の永遠の目的が成就されるまで，勝利を得，前進し続けるであろうと。

また，天の祝福が我々とすべての人々と共にあらんことを祈る。

天が全世界の上に義と真理とを注ぎたまいあらゆる人々が聞く耳を持ち，主の僕が語る真理と光の言葉に心を留めんことを。

すべての国民の中に主の目的が速やかに成就されんことを。

私は，至高者の聖徒である教会の会員たちが信仰を強め，義をなそうとの望みを増し，主の御前におそれかしこんで，彼らの救いをなし遂げられんことを祈る。

私は，善良なる人々，正直なる人々が真理を求め，あらゆる真の原則を支持し，自由と正義の道を広めえんことを祈る。

この問題と困難の多い時代に，あらゆる人々が世に来るすべての人を照らす光によって導かれ，人類を悩ます問題を解く知恵を得んことを祈る。

あらゆる人々，すなわち老いも若きも，悲しみを持つ者も，空腹なる者も貧しき者も，また不幸な境遇や不健全な環境に陥っている人々，助けと救いと知恵とを必要としている人々に，願わくは恵み深き天父が祝福を注ぎたもうよう祈る。

あなたがたと共に，私は地上のあらゆる天父の子供たちに愛と関心とあわれみとを持って，彼らの状態が物心両面でよりよくなるように祈っている。また彼らがキリストの御許に来て学び，キリストのくびきをとり，心のやすらぎを得んことを祈る。なぜなら，主のくびきは負いやすく，主の荷は軽いからである。(マタイ11：30参照)

私は末日聖徒と彼らに加わって天父の戒めを守るすべての人々が，この世にあっても，来たるべき永遠の世にあっても平安を得られんことを，謙遜に感謝をもって主イエス・キリストの御名により祈り奉る。

アーメン

働くことを学ぶ

管理監督　ジョン　H. バンデンバーグ

古代イスラエルでは，父親が長男に特別な祝福，賜を持つ生得権を与えるのが習わしであった。この生得権を与えられた者は，たいてい深い尊敬の念をもって大切にその特権を守ったのである。

現在私たちにも生得権が与えられている。それは私たちの性格，私たちの望む生活を形作ってくれるものである。この特権または賜は，働くという特権であり，その能力である。働くことの真の喜びを知っている若者は，人生における成功への数多くの扉を開く貴重な生得権を受けているのである。

生得権が尊ばれるべき特権である一方，中にはその偉大な価値を重んじない人々もいる。私たちは，イサクの長男エサウが，長子の特権を弟のヤコブに売った話を知っている。このことに思いをめぐらして，パウロはヘブル人に次のように勧告している。

「……一杯の食のために長子の権利を売ったエサウのように……ならないようにしなさい。あなたがたの知っているように，彼はその後，祝福を受け継ごうと願ったけれども，捨てられてしまい，涙を流してそれを求めたが，悔改めの機会を得なかったのである」（ヘブル12：16～17）

エサウの例をとって，パウロはたとえ悔改めをしても過去において浪費したものは取り返すことができないことを教えている。確かに，私たちは悔改めをし，許しを請うことはできる。しかし時を無駄に過ごすことによって，失なわれたものは決して取り戻すことはできないのである。

いかに働くか，いかに楽しい働きをなすことができるかを学ぶ時期は，あなたがた青年の時である。怠けて毎日を過ごすなら，いかに働くかを学ぶ機会を逸して，この貴重な生得権はその貴重さの度合に応じてそこなわれてしまう。幼い頃視力，聴力を失なった故ヘレン・ケラー女史[1]は，仕事の大切さと喜びを知った。ある時彼女はこう語った。「世の中にあって私に与えられている仕事は限られています。でもそれが仕事にかわりはないと思う時，貴重なものとなります。」

仕事の大切さは，他の人にやってもらって知ることのできるものではない。若者は自己の創意を大いに利用し健全な仕事をする機会を捜すべきである。神権定員会および補助組織の各クラスでは仕事を捜すのを手伝ってくれるだろう。

仕事を捜す際に，次にあげるいくつかの点を心にとめておくべきである。

1．日曜日の仕事は避ける。
2．教会の標準を保てるような職場を選ぶ。
3．自宅に近い所を選ぶ。

これらのことにつけ加えて，若者は自分の外観や態度にも気を配るべきである。清潔感，くしの目が通り手入れのゆき届いた髪，きちんとした服装，これらはみな雇用者に良い感じを与えるものである。

このことに関して，次のような記事が新聞にのった。

「先日，本紙のメッセンジャーボーイ求人広告を見てやってきた若者たちは，編集長室に入る前にそのほとんどが高校のサボリ学生ではないかという印象を与えた。そのような印象を与えた少年たちはみな，不潔ですり切れただらしない服装をしており，髪の毛は耳のあたりまでのばし，うす汚ない手をして，ネクタイもせず，みがいたようすもないくつをはいていた。この夏休みに仕事を見つけようとする人は，あらゆる手段を講じなければならないだろう。競争がこんなにも激しいことはかつてなかった。雇用者側は十分に検討して選ぶことができるのである。彼らは大勢の中から最もふさわしい，きちんとした人を選ぶであろう。本紙の夕刊には『求人欄』が設けられているが，あのメッセンジャーボーイの広告を見てやって来たような少年では，採用願いを出すことさえできないはずである。準備のなさは，どこに行っても現われるものである。」

私は，みなさん方に働いて得られる物のためにではなく，働くことによってどんな人になれるかをみるために，ここ数カ月間働くことを学んでもらいたいと思う。

主は言われた。「今やわれ主は，シオンに住める民を悦ばず。そは，怠る者その中にあり，彼らの子らもまた今や次第に悪事に増長し，永遠の富を熱心に求めずしてその眼は貪欲を以て充さるればなり。かかることはあるべからず。故にすべからく彼らの中よりこれを無くすべきなり。」（教義と聖約68：31～32）

チャールズ・キングズリー[2]はこのように言っている。「好むと好まざるとにかかわらず，毎朝目覚めた時に，その日になさなくてはならない仕事があることを神に感謝しなさい。強いられて働くこと，強いられて最善を尽すこと，それは克己，自制，勤勉，堅固な意志，快活，満足など，怠惰では決して得られない数多くの美徳を育むものである。」

1. ヘレン・アダムス・ケラー
（1880～1968）
米国の作家，講演者

2. チャールズ・キングズリー
（1819～1875）
英国の牧師，小説家，詩人

召しにこたえる若者

デビド・ウェイクリング

質問： **私たちは天父と教会に対して，人々に福音を教えるという責任を負っている。宣教師になることは，若者にとって特別な召しである。伝道に出る準備として何をしなくてはならないだろうか。**

答え： 今もしだれかがあなたがたに，またあなたがたの先祖に福音を伝えなかったなら，今あなたがたはどうなっているだろうか。もし，急に私たちから，神が生きておられ我々の祈りを聞き答えて下さるという知識，権能ある人々から水に沈められるバプテスマを受け，キリストの戒めをすべて守ることによって救いと昇栄が得られるということ，再び天父と共に住めるという知識が取り去られるとしたら，私たちはどんなに困惑してしまうことだろうか。

あなたがたはたった2度の食事を抜いただけでどんなに空腹になるか，さらに3度，4度あるいはそれ以上の食事を抜くとなると空腹感がどんなにひどいものかを知っている。これは教会外の人々，すなわち暗やみの中にいる人々について言えることである。彼らは真理と神に関する知識に飢えている。そしてだれかがそれを自分たちのところに持ってきてくれるのを待ち望んでいるのである。

人生で最も価値ある召しは，人々に最大の奉仕のできる召し，すなわち人生をより良いもの，より幸福なものにするよう努めることである。「……わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは，すなわち，わたしにしたのである。」（マタイ25：40）

末日聖徒イエス・キリスト教会の長老たちに与えられているような，人生で最も尊い召しにたずさわるというすばらしい機会の与えられている人々は世界中どこにもいない。個人個人の努力に応じて救いと平安を得させるために彼らは奉仕し世界をより良いすばらしい場とするために才能と富を提供しているのである。我々の教会の目的は，人々に福音の完全な律法，規則に従った生活をさせること，すなわち日の栄の王国で神のみもとに住めるよう準備させることである。それはイエス・キリストの福音を受け入れることによってのみなされ得るのである。

伝道に出るために，私たちは祈り，清い正しい生活をし，福音の勉強をして何年間か準備しなくてはならない。この世の道徳がそんなにも低く，アルコール，タバコが人々との交際に欠かせないもののように思われている今日，それは決してたやすいことではない。私たちの教会の道徳の標準はただ一つで，それは男性にも女性にもあてはまる。教会の標準は正しく，神から与えられたものであって，尊敬されるべき男性，うるわしい女性，幸福な家庭を生み出し，国家の永続に貢献するものである。私たちは教会を代表する者としてふさわしくあるよう十分に思慮深くあるよう，またとりわけ良い品性を身につけるよう努めなければならない。また肉体的な準備も怠ってはならない。宣教師活動は奮闘を要するものであり，気候の変化は慣れないうちはつらいものである。さらにホームシック，落胆などが加わると，肉体的な準備ができていない人は心身の重荷に耐えかねて倒れてしまう。

長老はすべてキリスト教徒として紳士らしく振舞わなくてはならない。紳士とは，何も隠すことを持たず，罪の意識を感じてうつむく必要のない人であり，真理，美徳，知恵の言葉に忠実で，自分自身と，他の人々を正しく判断し，律法に関して約束に忠実であり，神と人に忠実な人をいうのである。世の人々をキリスト教に帰依させるために出かけていく長老はそのような人でなければならない。

私たちは終りの日に神の前に咎なくして立つために，心をつくし，勢力をつくし，思いをつくし，体力をつくして神のつとめをなすために準備しなくてはならない。（教義と聖約4：2参照）

「見よ，畑は早白くして刈り入れを待てり。故に刈り入れんと欲する者は，何れも勢力をつくして鎌を入れ，日の尽きざる中に刈り取りて……然り，鎌を入れて刈り入るる者は誰にても神の召を受くるなり。」（教義と聖約11：3～4）

青年よ，賜を使いなさい

十二使徒会地区代表
元ベルリン伝道部長
パーシー　K.　フェッツアー

私たちは非常に多くの場合，福音の原則のゆえに愛や献身という言葉を口にする人々と接する時に，イエス・キリストの福音の真価を知る。

これをもっとわかりやすくするために，競売について述べている物語詩を思い出してみよう。競売人が古いバイオリンを高く持ちあげ，その価値を言ってから安い付け値で売りはじめた。しかしだれも競売人の言葉やその古いバイオリンに興味を持つ人はなく，値段が安いにもかかわらず買い手は見あたらなかった。

そこでその年老いた競売人は前に進み出て，バイオリンを弾いてみていいかどうかを尋ねた。願いは聞かれ，弦の調子を合わせると彼は器用な手で，いかにもその古いバイオリンが気に入っているというようすで弾きはじめた。そのバイオリンのすばらしい奮い立たせるような音色は聴衆をすっかり魅了してしまったのである。

音楽が終っても人々の賞賛はやまなかった。競売人は再びそのバイオリンを高くあげた。付けてくる値で人々の心が変わったこと，バイオリンに対する見方が変わったことがわかった。こうしてそのバイオリンは相当の値段で売られたのであった。

競売人は，最初に値を付けた時から最後の付け値までの間にバイオリンの性質を変えたわけではなかった。見事な方法で，彼はその楽器の可能性を示したのである。それは同じバイオリンであったが，彼はそのバイオリンの価値を聴衆の心に高く評価させたのであった。

同様に，神の御子の福音も，それを後世に残そうと大切に保っていくことを約束している人々が，実際に弾いてみせなければ買い手は現われないのである。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として，私たちは手中に永遠の価値ある神聖な楽器をにぎっている。それが価値あるものかどうかは，私たちの信頼する人々の前で，それをどのように用いるかにまるのである。

神と両親に対して

リンダ・キャンポーラ

あなたは前世にあって勇敢な霊だったのです。また二つの計画が提案された時，あなたは地上で新しい生活を始めるために，骨肉の幕屋を得たいという気持ちを押えることができなかったのです。あなたは愛する天父の栄光に満ちた家庭を去りたくはなかったのですが，地上で二人の人が祈り求めて，あなたのやってくるのを待ち望んでいたのです。

ニーファイが「私すなわちニーファイは善い父母から生れたので……」（Ⅰニーファイ１：１）と言った時，まさにこのことを意味していたのだと私は信じています。良い父母に対する若者の責任は何でしょうか。

神がこれら二人の人々に，最も貴い財産であるご自分の選ばれた霊の一人を委ねるだけの信頼を置かれているのなら，若者は判断を下すときに当然自分たちの両親の勧告に耳を傾け，彼らに従い，敬うべきではないでしょうか。

私たちは両親を信頼しているでしょうか。それとも「お父さんやお母さんにはわからないんだ」などと言っているのではないでしょうか。私たちは両親と生活を共にしているでしょうか。それともデートのあとで，明りのついている両親の部屋の前をぬき足さし足で通り過ぎてはいないでしょうか。私たちが場所や時間，友人を偽って話しても，両親は信頼してくれるなどと思ってはいないでしょうか。私たちは「これが私の父母です」と言えるでしょうか。また誇りに思っているでしょうか。それともある若者たちのように見下げた態度で，両親を「老いぼれ」呼ばわりしてはいないでしょうか。

また，二人で映画に行けるように，一晩でも小さな弟や妹と共に家に残ってあげることを考えたことがあるでしょうか。それともいつも自分たちだけで車を使っているのではないでしょうか。お母さんが一度着たきりのブラウスを，すぐ自分のものにしてしまってはいませんか。

父親アルマの苦悩を考えてみて下さい。彼の息子アルマは本当に手におえない若者でした。しかし主の御使いが現われて口がきけなくなった時，彼は悔改めてそののち力強い宣教師となったのです。

従順，尊敬，名誉，これらは非常に大切です。しかし得ることのできる最大の賜は，正しい生活をし，福音の原則を守り，絶えることのない証を持つことです。これには神殿結婚も含まれます。私たちが御父の日の栄の王国に住み，家族を持つことのできる唯一の方法は神殿結婚です。神殿結婚をするにふさわしい者であるために，私たちは常に清い生活をしなくてはなりません。私たちのこの十代という時期は，両親にとって最も心配な時期なのです。彼らは，私たちが経験し始めている激しい衝動や感情を知っています。彼らも同じ経験を通してすばらしい発見をしたのです。彼らは私たちを助け，導いてあげたいと思っているだけなのです。

前世を去った霊は清く，熱意を持った勇敢な選ばれた霊でした。私たちは，この世にやって来た時と同じ清い状態で再び帰るという一つの考えと目標を持って日々を過ごさなくてはなりません。

上手に語られた良い物語は，最もすばらしい教材の一つになります。

どんなに良い物語でも読んだのでは内容が死んでしまいます。（例外：生徒には各自の聖書を読ませなさい）

アブラハム，ヨセフ，ダニエル，イエス，パウロの物語をする時には，しばらくの間その人になりきって話しなさい。これは背景を調べるだけでなく，彼らがどう感じ，どう考えたかという感情移入の必要性を意味するものです。

聖句を暗誦しなさい。聖書の言葉は非常に力強く，感銘的なものがあります。聖句を一人一人にのべるときは，途切れないことと目の触れ合いが大切です。そうすることにより，あなたは間接的にクラスの生徒に聖句を暗記させる模範となるのです。

物語をしなさい

イワン・ハーブレクト・ミトン*

＊イワン・ハーブレクト・ミトン姉妹は，オレゴン教育大学の音楽の助教授である。コンサート，オペラ歌手として，これまで北米やヨーロッパ各地を演奏旅行してきた。1955年，タバナクル聖歌隊のヨーロッパ演奏旅行の際，ミトン姉妹はソリストとして加わった。これまでプライマリー，日曜学校，ＭＩＡの教師として働き現在サレムステーキ部（オレゴン州）のステーキ部指揮者である。夫のジョージ　L．ミトン氏との間に４人の子供があり，サレム第２ワード部に所属している。

物語は，宗教教育上欠かせないものです。もし子供たちに福音の真理を効果的に教えようとするなら，物語をするための準備の仕方とテクニックを知らなければなりません。特に，聖典から物語が引用されている場合のレッスンでは子供たちがよく理解し，私たちと同じ確信と証が得られるように最大の努力を払わなくてはなりません。物語は，それを話す教師によって効果のあるなしが決まります。

計画と準備

聖典からの話は，その内容を知るだけでなく，霊的な特質を感じとり，現在の生活に応用できるかどうかを見るのですから，十分な準備が必要です。いったん意味をつかんだなら，じょうずな教師は「非常に深く心を打たれた事柄をすぐに他の人々と分ち合いたい，しかも感情だけではなく，心も魂も分ち合いたい……」[1] と思うのです。教師の熱意と奮起によって，子供たちは聖書の話が好きになり，福音に対してはっきりした認識を持つようになるのです。

福音の物語は大人用に書かれているので，子供用に直す前に，大人という立場から理解すべきです。ここでも準備ということが言えます。レッスン用のテキストは，子供たちが理解できるような方法や言葉を見出す際に大きな助けとなりますが，私たちが述べる証は，聖典に見られるような話を理解することによって増すのです。参考文献や聖句の注解に関して，背景となる資料がさらに必要になるかもしれません。また私たちは，話を心に留めておき，私たちの経験の一部として生き生きと感情をこめて話すようにしなければなりません。

物語は原文に忠実であることが大切です。良い語り手は，物語を誇張するために，作り話などは決してしないものです。語る価値のある物語は，装飾を施さなくとも興味をひきます。また技巧をこらしすぎたり，あまりにも

もしイエスが物語（たとえ話）をして下さらなかったら，私たちはイエスとイエスの福音に関して今のように多くを理解することはできなかったでしょう。「私の隣人はだれですか」という質問に対して，良きサマリヤ人のたとえ話以外にすばらしい答えを見つけることができるでしょうか。

大なり小なり，あなたの証はあなたの語る物語すべてに影響するのです。なんの考えも，準備も，個人的な信念も持たない話は偽善でありごまかしです。

子供たちは内容を細かに話したり，質問に答えることによってすでに知っている聖書の中の物語をすることができます。聖書には，ラザロを墓から出される前に，「イエスは涙を流された」と記してありますが，イエスは悲しまれたのでしょうか。このことは，ラザロやマリヤ，マルタに対するイエスの愛をどのように示していますか。（ヨハネ　11：35参照）

良い語り手は個人的に深く感銘した事柄を他の人々と分ち合いたいと強く望みます。

詳しすぎて，子供たちのために，簡潔さ，効果を失なわないようにすべきです。

物語を子供たちの生活に関連づけて話すと興味をひきます。物語のあらゆる面を，誠心誠意で十分に理解してから，自分にこう問うてみるべきです。「この物語からクラスの生徒に何を得てもらいたいと思っているのだろうか。この物語は何を教えているのだろうか。この物語を生徒の経験とどう結びつけたらいいだろうか。」私たちは，丁度ニーファイが自分の民のためにしたと同じことを子供たちのためになし，「私たちの学問と利益になるように，すべての聖文を私たちのためと見立て」（Ⅰニーファイ19：23）なくてはならないのです。言い換えるなら，私たちのする物語を意義あるものとしてくれる，今の時代のたとえ話や例を絶えず見つけなくてはならないのです。

練習とレッスン

うまく物語をするには教室の中だけでなく，それ以外の所でも練習しなくてはなりません。捜せば，教師はそのような練習の機会をたくさん見つけられるでしょう。レッスンに臨む前に，鏡の前で練習してみなさい。じょうずに物語をするための大きな助けとなるでしょう。

あなたはクラスで生き生きとした教え方をしていますか。身ぶりや手ぶりは，あなたの考え，感情を伝えるのに役立っていますか。この方法はマンネリ化を避け，物語の価値を落す不必要な身ぶりをなくしてくれます。

自己を評価し，改善するためのもう一つのすばらしい方法は，テープレコーダーの使用です。できれば物語をテープに吹き込み，聞きながら，自分のテクニックを考察してみなさい。語り手としてのあなたはどうですか。小さな安いテープレコーダーでも，十分話し方の上達に役立ちます。

また自分の子供やその友だちに物語をしてあげることによっても練習できます。たえず，練習の機会を見つけなさい。物語をすることによって心に銘記することができ，丁度即席の音楽を作るときのように，他の方法では浮かんでこない考えも物語をしている最中に浮かんでくるものです。

意味を持ち，感動させる味のある事柄，心に思い浮かべることができ，耳を傾けさせる事柄を述べなさい。あなたの人柄と確信を子供たちに感じとらせなさい。クラスを訪問してくれた年長の人々の提案や評価を心から受け入れなさい。

物語をする前に，その詳細をはっきり心の中に留めておきなさい。これまで何度も聞いたり話したりしたことのある物語の場合は，その物語をはじめて聞いたものと仮定して取り組むとよいでしょう。そのような物語は心で聞きなさい。何度も読み直して新しい意味や見方をとらえなさい。子供たちは，新しい考え，理解へと導く質問に答えたり，内容を細かに話したりして，すでに知っている物語を発表することができます。

もし祈りをもって十分に準備し，想像力と確信をもって伝えるならば，福音の物語はいつまでも新鮮で霊的なものとなるのです。

1. ルース・ソーヤー「物語のしかた」P.28（英文）

テキストに書かれている話をそっくりそのまま読むことほど退屈な，つまらないレッスンはありません。

聖書の物語は，あなた次第ですばらしくも，つまらなくもなります。すばらしい話かどうかは，視覚教材の数やレッスンの前に何度その話を読んだかということよりも，むしろその話を理解しているかどうか，個人的に証を持っているかどうか，子供のレベルに合わせて話す能力があるかどうかによるのです。

各物語には一つの中心となるポイント，概念，目的があるはずです。それ以上つけ加えることは学習を乱すことになりかねません。もう一度イエスの話とその率直さ，簡潔さを観察してみなさい。

すばらしい物語が，必ずしもそれを聞く人々の質問全部に答えられるとは限りません。イエスの話もしばしば疑問を残したまま終っていて，聞く者が，自分で結論を引き出さねばなりませんでした。

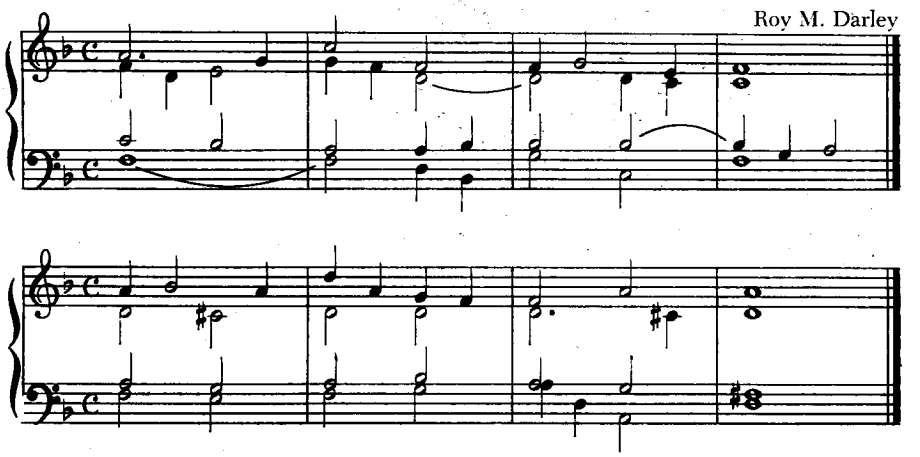
10月の聖餐の聖句

大人日曜学校

「わたしは福音を恥としない。それはユダヤ人をはじめギリシャ人にも，すべて信じる者に救いを得させる神の力である。」（ロマ１：16）

子供日曜学校

「心のきよい人たちは，さいわいである。かれらは神をみるであろう。」（マタイ５：８）

聖餐の聖句伴奏曲

「忘れえぬ人」

ジョージ・デュラント

私たちは数ケ月前に越してきたこのワード部に急に慣れてきたようであった。私はもうこの新しいワード部での経験が生活の一部となってきたため，あんなに大好きだった前のワード部での思い出さえもうすれていくのではないかと思う。しかし私は前のワード部での楽しい思い出をいつも忘れないだろう。

本当に良い人たちばかりだった。私は子供たちが教会で一番良いクラスに入っているといつもそう思っていた。それは子供たちの教師を私はよく知っていたし，また大好きだったからである。

私は偉大な指導者の指示のもとに，同僚の大祭司たちと席を同じくする時には，よく胸のおどるような感動を憶えたものだった。ワード部の監督は私たちの力の源であった。そして監督が私たちを愛し，本当に私たちのためを思っていてくれるのだという気持が真に感じられるのだった。

しかし，私たちのワード部にあって忘れることのできない一人の人がいた。彼はよく私の家を訪問した。彼は私の家に来ると子供たちを名前で親しく呼んで，ひとりひとりと話すのだった。彼は子供たちの言うことはなんでもよく聞いてやっていた。子供たちには，彼が自分たちを心にかけていることがわかっていた。

私たちの子供が幼児の祝福を受けた時も，彼は幼児を祝福する神権者たちの輪の中に私と共に並んで立っていた。子供たちがバプテスマを受ける年頃になった時，彼は子供たちにその儀式の重要性について話して聞かせた。子供たちが，バプテスマの水の中に入った時には，彼は証人として一緒に出席し，非常に喜んでくれた。子供たちを教会の会員として確認する儀式においても，彼は私と共にその手を子供たちの頭にのせた。一番上の息子が執事になった時，そばにやって来て祝ってくれたのも彼だった。

私が出張で出かけた時には，毎日私の家に電話をかけてきて安否を気づかってくれた。毎週私たちが教会へ行くと，彼は私たちをみつけては握手をした。かつて私が病気になった時などは，もう一人の兄弟と共に私の家を訪れ，病いを癒す儀式を施してくれた。彼はよく一緒にひざまづいて祈った。

私たちの話を聞いてくれる彼の態度は私たちにもっと良いことをしなければと感じさせるものであったが決して彼は私たちに説教をしたりはしなかった。彼は名のとおった偉大な教師でもなく，まして立派な学者でもなかったが，彼からは知恵と力とが感じられた。彼は，私たちが信頼し尊敬しうる霊的な光を放っていた。私たちに影響を与えたのは彼の言った言葉ではなく彼の人となりであった。

彼が私に会いに来た時，アロン神権者の息子の一人をつれてきた。彼は息子を愛していた。私の子供たちは彼らといっしょにスポーツや水泳の話をするのが好きだった。

引越すまえに，私たちはうら庭の芝生でピクニックをした。名誉あるお客様である彼は，家族をつれてやってきた。彼は手造りの，中に桃が入っているアイスクリームを持ってきた。私たちは手を取り合い，お互いの目に涙をうかべて別れをつげたのだった。

このように，私は，前にいたワード部でのすばらしい思い出の数々を忘れない。そこには，私のなつかしい人々がたくさんいる。しかし，私にとって最も忘れえぬ人は，私のホーム・ティーチャーその人である。

心も洗い清めてくれた母

リンゼイ　R.　カーティス作

土曜日の夜に，10人の子供と両親が入浴することは，大変なことであった。しかし，以前は石炭ストーブの上に鍋をのせて湯をわかしていたのだが，今では湯わかし器のとりつけてある新しいストーブに改良されていた。

お母さんが立てひざで私たちの肌をごしごしこすって洗い（そうされるのはあまりうれしくない時もあったが），最後にきれいになったかどうかよく調べるのを，小さな子供たちはならんで順番を待つのだった。あれから50年経た今，思えば母は明らかに安息日にそなえて私たちの体のみならず，心をも洗い清めてくれたのであった。

母が私に語ってくれた，二人の少女とそのお母さん（私の祖母）だけで家にいる時に，インディアンが戸口のところまでやってきた時の話を私はよくおぼえている。かの女たちはどうしていいのかわからなかった。しかし，もちろん丸太小屋の

ドアが開くまえに，主にすべてをまかせて祈ったのであった。

丸太小屋のまわりを見たインディアンたちは，自分の身を守ることのできない女たちだけしかいないのを知ったにちがいなく，与えられた食料だけ取って，子供やその母を傷つけることもせずそのまま帰ってしまった。

私は，子豚の銀行と呼ばれ，母が子供の頃グリーンのふちどりがしてある手編みの灰色のミトンに１円ずつ十分の一として貯金をしたという開拓時代の話を思い出す。とうとう10円貯まり，教会の什分の一の記録簿に彼女の名前が初めて記録されるというので喜びいさんで監督に納めに行ったその時のことは，子供心にいつまでも忘れられないものとなったようであった。このことから始まり，この小さな灰色のミトンは，この少女にとって天の窓を開け（マラキ３：10）始め主があまりにも多くの祝福をそそぎたもうたので彼女はその祝福をうけきれないほどであった。ミトンの中身がふえると共に，少女の信仰も増していった。

じょうずなやりくりはもちろん，節約を学ぶことによって，彼女は大切なものを買うのに十分なお金をいつも持っているようであった。天の扉は教育のために開けられた。他の扉は，彼女が教師の資格をとるときに開かれた。

この少女が結婚した後，私の父や母が家計をやりくりしながらもこのミトンは，主の十分の一として，大切にまもり継がれたのであった。ついにかれらの祝福はあまりに多くなりすぎたので，この小さな灰色のミトンにもはや什分の一が入りきれなくなってしまった。しかしミトンはその目的を十分果たしたのであった。その事は少女に什分の一というこの大切な律法を教えただけではなく，その教訓は彼女の百人以上の子孫にまでうけ継がれたのである。

私は母が手に一本の棒をとってたやすく折ったことを思いだす。それから母は10本の棒をひとまとめにして，それがいかに折れにくいものかをしめしてくれた。

「もしも10人の子供たちが，愛と誠実とを持って互いに結び合うならば，あなたたちの力はその百倍にもなるでしょう。」その棒と一致団結の精神は家族が困難にあって立ちむかう時，私たち家族を守るよろいとなっているのである。

母が私たちに悪いことを正し，良いことを教えるために私たちを罰する時の態度は，それに対してだれも口だしできない正義感あふれる毅然としたものであった。罰をうけるものは，いつも自分で，そのむちに使う柳の枝をとりに行かされた。

母は私たちが罪を感じるのをよく知っていた。私たちは良心にしたがいそれぞれ自分の罰に値する大きさの柳の枝を持ってくるのだった。私たちがうける良い報いや罰の段階というものは，私たちのするその生活によって私たち自身が決定するのではないのか。

母は私たちの生活にとってホーム・ティーチャーがいかに大切であるかということについてあらためて言う必要はなかった。家族のみんながホーム・ティーチャーに十分な尊敬と親切を示していた事実がそれを物語っていた。もしあの頃のことを写し出すテレビがあったなら，私たちの家族の最も大切で最も親しい友だとして監督の次にホーム・ティーチャーが映し出されることだろう。

監督，あるいは他の権威ある人々に対しての悪口は決して口にされたことはなかった。何の抵抗もなく私たちはホーム・ティーチャーの助言を尊ぶようになり仲間として愛するようになった。

他人へのおもいやりや共に分ち合うことなどは私たちにとってごく当然のこととなっていった。私たちはいつも日曜日の夕食には盛りだくさんの食事を用意しては，母が扶助協会の会長をしていた時に世話をしていた，ワード部の年老いた未亡人の人たちを招いてよく共に食事をした。母が世話をするようになってからはその年老いた未亡人たちはだれ一人として仲間はずれにされたりはしなかった。彼女たちが生きている間はずっとその食料倉庫は，いつもいっぱいに保たれていたのだった。

神権に対する信仰は，忘れがたい経験をとおして私たちにもたらされた。姉のレイが重い病気にかかっていたとき急に容態が悪くなりはじめた。その時は丁度，父も，他のメルケゼデク神権者もいなかった。

庭に家のまわりの塀を造っていた二人の男の人がいた。母はすばやく二人のところへ行き，かれらがメルケゼデク神権を持っているかどうかたずねた。かれらはメルケゼデク神権者であったが，自分たちが病いを治す儀式を執行するには経験がなさすぎると思っていた。

「早く私といっしょに来て下さい。私のところに聖別された油があります。そして，あなたがたの言うべき言葉は私が知らせましょう。」と母が言った。私たちのだれもが，この信仰ある母の教訓と神権の権能の重要さを忘れることはできない。

母が困難な問題に直面した時の解決のしかたは直接的であった。彼女は鏡の前にまっすぐ立ち，鏡の中の自分をじっと見つめて言うのだった。「さあ，あなたとこの問題とどちらが大きいか」

答は明らかだった。

確かに，母は私たちの体を洗ってくれた時，心も洗い清めてくれたのだった。私たちに，永遠の生命にいたる助けをしてくれた母に，どうやって報いることができるというのだろう。私はその方法を知らないが，しかし一つの思いが心に湧いてくる。

天父がその独り子イエス・キリストをいく度か紹介なさった時はいずれも，正当な誇りを持ってイエス・キリストを指してこのように言われたのであった。「これは私の愛する子，私の心にかなう者である。」（マタイ３：17）

母が私たちに対してこれと同じように言ってくれること以上に，何を望むことができるであろうか。

幼児に福音の真理を教えなさい

マージェリィ・キャノン

ある若い母親が，週末の旅行に出かけるので，１歳半の赤ちゃんを祖母にあずけた。

「ありがとう，お母さん，本当に助かるわ。ああ，そうそうもう一つ忘れていたわ。あの子に食物をあげるまえに，小さな手をあわせて短い食事の祝福のお祈りをさせてあげてほしいの。家では夜にもあの子と一緒に家族の祈りをするのよ。もしよかったらお父さんとお母さんも，あの子のベットの横にひざまづいて，いつもあの子がするようにお祈りしてくださる？　そうすれば安心して眠ると思うわ」

娘が立ち去ってから，祖母はこの申し出について考えた。かれらは，何と賢い両親なのだろう，と彼女は思った。１歳半の時に身につけられた習慣はその人の18歳の生き方を決めるといわれている。彼女は，自分の娘と隣に住んでいる若い母親の人生に対する考え方を比較せずにはいられなかった。「私は子供が二歳半になるまで働くつもりです。二歳半になるまでは，子供は本当にだれがだれなのか，とにかく何もわからないのですもの。」　Ｊ・ルーベン・クラーク・ジュニアはかつてこう明言した。「主は，幼年時代の初期から子供は福音の原則と教義に基づいて教えられねばならないことを，はっきり啓示なさっています。もしそうしなければ，罪はその両親の頭に留る（教義と聖約68：25)のです。」

今や，子供の成長の分野における最も重要な研究は，生後何ケ月という時期に関係しているのである。多くの心理学者が，人間の一生にわたる進歩はその人が４歳になる前に何を学んだかによると信じている。そしてまた一たびその幼い頃の感じやすい年齢を過ぎてしまうと，子供は決してその頃と同じように，すなおに，そして自然に受け入れて，学ぶことはないであろうということに意見が一致している。

子供たちを教育する機会は，私たちが子供たちの良い面に気づきひきだしてあげることができればいつでもあるのである。

娘のメリリイが丁度２歳の時であった。彼女は，私に灌油の儀式をしている間，兄や妹とひざまずいて共に祈ったのであった。翌日の朝私は良くなっていた。それから三日後の夜の食卓で，メリリイは食欲がなかった。私は彼女に熱があることに気がついた。「お母さん，お母さんが病気の時にお父さんがお祈りしたらなおったでしょう」と彼女は考えぶかげに言った。私がうなずくと，彼女はまた言った。「お母さん，私もお父さんに祈ってほしいの。」そこでメリリイの父親は灌油の儀式を施し，翌日の朝彼女は元気になった。

メリリイは今10才である。彼女は祈りが答えられるという強い信仰を今もなお持ちつづけている。

７番目の子が３，４カ月の頃，まだ言葉の意味もわからない時に，私はすべてのことの中で最も大切な真理，すなわち天のお父さまとイエスさまが彼を愛しておられるということを教えはじめた。私が彼をうでの中に抱いて，あなたを愛しているのよとささやき，いつも私はこうつけ加えたものだった。「天のお父さまもあなたを愛しており，イエスさまもあなたを愛していらっしゃるのですよ」と。これらは彼がひざにだかれ顔を撫でられながら毎日毎日聞かされた言葉だった。時々私は，はたしてこんなに幼い赤ん坊に本当にこの真理を教えることができるのだろうかといぶかった。はっきりではないが，それは一番初めの段階なのだった。初めに彼は言葉というものを，愛されることによって感覚的に覚え，次に深い意味を理解していくようになるのである。

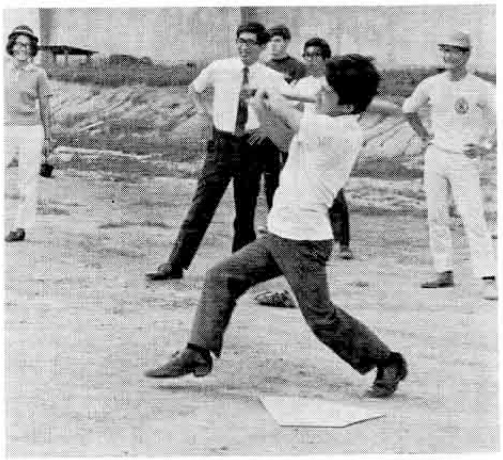
やがて彼が幼児となった時，私は彼の部屋にイエスさまが子供たちを祝福している大きな絵を飾った。天のお父さまがこの世に救い主を送られたその愛とまた，救い主が私たちを愛して，命をすてられ，それによって私たちが再び生きられるようになったことを彼は理解するようになった。

私たちの息子は今，６歳である。彼は日ましに大きくなって，今ではもうベビーサークルや囲い付きの遊び場からはみ出してしまうほどだが彼の会話や祈りには天のお父さまやイエスさまが生きておられ，彼を愛しておられるという確信があらわれている。彼がまだ赤ん坊だったときに学んだよいことが，彼のまず第一に考えることとなっているのである。いつの日か，あの確信こそがすべてのもののうちで最も必要なものであることを彼や私の子供たちみんなが知るようになるのである。

私たちは子供たちを無視することはできない。かれらは喜んで学ぼうとしている。そしてもしも私たちが本当に幼いうちから福音の真理を教えるならば，私たちの幼児が成長した時に真理から離れることがなく，必ずや，彼らが復活し，昇栄し「とこしえに栄光をその頭に附け加えられ（アブラハム３：26)」るにちがいない。そして私たち両親は，主より受けたこのさし迫った義務を為しとげたという実感を持って祝福されるであろう。

日本東伝道部

当伝道部も日々，発展し伝道地が次々に，開かれています。現在，北海道には，釧路，帯広函館，岩見沢，苫小牧に。東北には青森，盛岡，秋田，八戸，弘前，石巻の各市に宣教師が派遣されています。



8月13，14，15日に札幌市郊外の野幌原始林で札幌支部ＭＩＡ主催のキャンプが行なわれ，岩見沢伝道地からも会員たちが参加して，楽しい時を共に過ごしました。

（はてボールの行方は？）

（楽しい食事の時間）

（中央が故小倉正美兄弟）

旭川支部の小倉正美兄弟が去る７月26日に海水浴中溺死されました。旭川支部で５年間活躍され，支部の発展のためによく働いていた彼の姿を見る事ができなくなったのは淋しい限りですが，この機会に神様の計画をよく知り得ることが出きるように，お互いに学びたいものです。

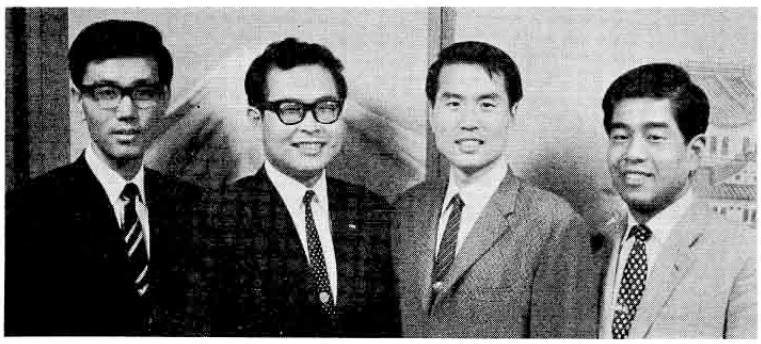
日本伝道部大会

9月12日（土），13日（日）の二日間にわたって日本伝道部の大会が開かれ，遠方より，前大会を100名も上回る450名以上の信仰厚い兄弟妹姉たちが参加されました。この大会で，新たに第一地方部，長老定員会が組織され，それぞれの役員が支持されました。

日本伝道部は，本年3月に，東京ステーキ部，日本東伝道部より分離して，たった4支部と6伝道地しかありませんでしたが，すばらしいビルス伝道部長と，本当に熱烈な宣教師の方々の努力のもとに，この6ヶ月間に7支部と10伝道地にまで，大きく発展しております。

今や主の奇しき御業が，この地に行われています。

新たに組織された　第一地方部長会



阿部達也（書）．　浜田哲（1）．　青柳地方部長．　神田治（2）

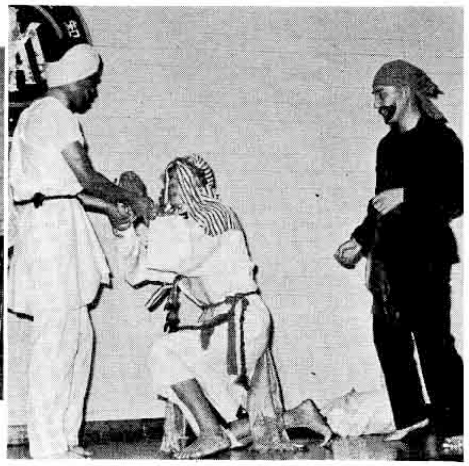
長老の支持を受ける兄弟たち

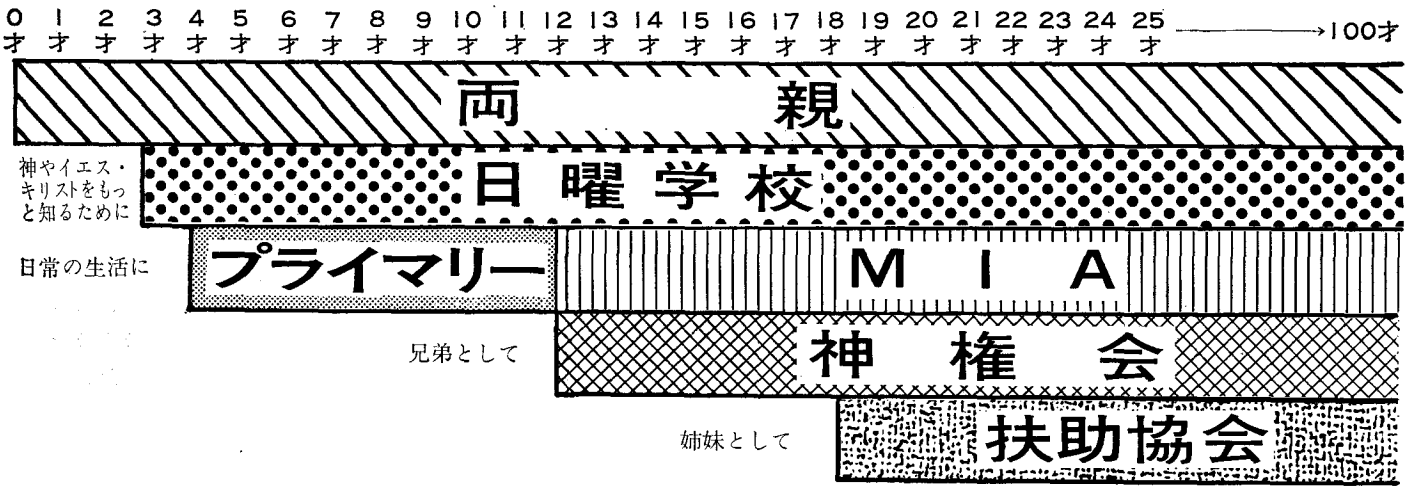
美しいシンギング・マザーズのコーラス（左）

熱演する各支部の兄弟妹姉（下左中右）

MIAショー

12日（土）の夜は各支部対抗の5分間コーラス，スピーチ，ドラマの楽しいショーがありました。





無限－100＝無限

「……人類が現世にあるのは幸福を得んためである。」（Ⅱニーファイ2：25）

「幸福を得る」どんな状態が「幸福を得た」といえるのでしょうか。もしそれが物質的に満たされた幸福なら限界があります。また精神的に満たされた幸福ならそれはまだ完全な幸福とはいえません。ではいったい幸福とは何か。そうです，天父なる神さまの御前に立ち帰った時，私たちはその幸福の真髄を悟るに違いないのです。すなわち神と同格の条件を（肉体的にも霊的にも）持ち合わせなければならないということです。

そのために今，私たちはこの地球上にいるのです。しかし，ただこの地球に生を受けたからといって，それでよしというのではありません。神さまのようになれるように，一つの道に沿って行かねばなりません。私たちが真の幸福を得るための道すじはあらかじめ神さまが定めてくださってありますからその通り進めばよいのです。その道はすべて聖典や，啓示によって示されています。

私たちがもし神さまのところへ帰るための方法を独力で，聖典から学びとり，自ら啓示を受けて進もうとしたら，大変なことです。私たちの一生は長くて100年です。前世の無限に近い生活と来世に於ける永遠の生活の間に私たちの100年は誠に特殊に，しかも誠に重要に，「現世」として歴然と存在しているのです。たったの100年，それは人々にとっては沢山の事柄のでき得る時間かも知れませんが，宇宙の年齢からしたら，一瞬の間の時間なのです。無限の時の流れから百年を差引いたとしても残りはやはり無限の時間なのです。

私たちは果しない時の流れの中の髪の毛一すじほどの間隔を私たちは現世と呼び，その中で，自らの行く末を決定すべく生活しているのです。そんな短かくも大切なこの世にあって，どうして神さまのところへ帰る道を知らずに幸福をつかむことができましょうか。また，無力な人間だけで，どうしてその正しい道を歩くことができましょうか。イエス・キリストは私たちを助けるため教会をおつくりになりました。末日聖徒イエス・キリスト教会のすべての教育機関は，私たちの短かい人生をいかにして正しく歩むかを教える唯一のところです。もう一度くりかえします。私たち独力では決して救いの道を全うすることはできません。教会のあらゆる組織，神権会，日曜学校，子供の日曜学校，プライマリー，ＭＩＡ，扶助協会等，私たちに与えられているすべての組織はどれ一つ欠くことのできないものなのです。それは「幸福を得ん」ための唯一の正しい道なのです。

図表は私たちの助け手として与えられている教育機関です。そうです，私たちは神さまのようになるのには決して簡単ではないけれど，困難ではないのです。与えられた道を歩めば，無限－100＝無限。すなわち私たちの人生100年（現世）は永遠の時の流れからすれば，零に等しいのです。

さあ，私たちは男であろうと女であろうと大人であろうと子供であろうと，全ての人々がどこかに，この図のどこかに概当するはずです。幸福への道を，決して見失なうことなく歩もうではありませんか。

〔万国博だより〕

モルモン館にて，沖縄のモルモン聖歌隊が歌う

去る８月17日（月）モルモン館のクリスタスの像の前で午前午後約１時間おきにＭＩＡコンファレンスに招待された沖縄聖徒達の聖歌隊によるコーラスが披露され絶讃を拍しました。

三笠宮殿下モルモン館を御訪問

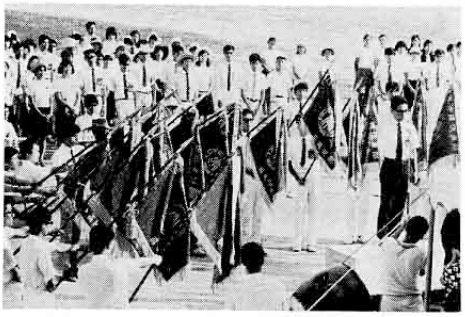
去る８月31日（月）午後２時15分より２時40分まで約25分間，三笠宮殿下御一行がモルモン館を御訪問下さいました。

モルモン教会の信仰ならびに教義，その他教会について多くのことを殿下に御紹介出来ましたことを天父なる神に感謝致します。

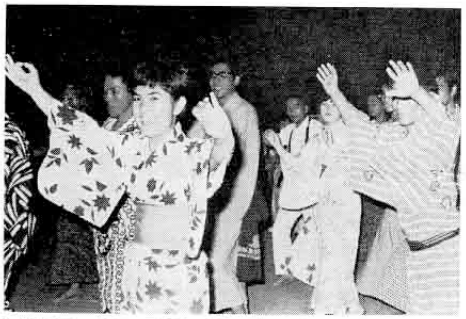
モルモン館訪問者 600 万人目の樹立

去る９月４日（金）午後１時，とうとうモルモン館訪問者600万人目の記録を樹立しました。名誉ある600万人目の人は長野県長野市に住む油崎保さんで，油崎さんは当日２人の子供達と奥さんの４人連れでモルモン館を訪ずれたところでした。記念品のモルモン経と天使モロナイ像を手に受け取り大喜びでした。

日本中央伝道部 日本西部伝道部 合同MIA・コンファレンス



８月13日　第一日目　開　会　式



８月13日　第一日目　親　睦　会

８月14日　第二日目　音　楽　会（沖縄コーラス）

８月14日　第二日目　ロードショウ

８月15日　第三日目　フォークダンス・フェスティバル

去る８月13日（木）より８月16日（日）までの４日間，中央管理会YWMＩＡ会長，ジェイコブセン姉妹，ジャクソン姉妹をお迎えして神戸のカナディアン・アカデミーにて，中央伝道部，西部伝道部の合同ＭＩＡコンファレンスが開かれました。約450名のＭＩＡ会員が集まり共に歌い，共に踊り共に食べ大きな神様の祝福の下に閉幕されました。プログラムの内容は13日（木）開会式，親睦会，14日（金）演説会，音楽祭，ロードショウ，15日（土）スポーツ，フォークダンス・フェスティバル，ファイヤストーム，16日（日）神権会，証会。

８月15日　第三日目　スポーツフェスティバル

日本西部伝道部だより

福岡での大会

渡辺伝道部長

9月の福岡での大会には，愛と一致の精神がみなぎっていたようです。九州地区の8つの支部から200名以上の兄弟姉妹が出席し，2日間の大会はすばらしいものとなりました。

土曜日の夜は各支部から盆踊りのデモンストレーションがあり，一晩のうちに兄弟姉妹は互いの親睦を深め，愛の精神を一層強く感じたのです。

日曜日，兄弟姉妹は主のみたまに満たされたまま一堂に会し，会員，宣教師が主と共に一層の働きをなすようにとの渡辺伝道部長の霊感あふれる話を聞きました。こうして出席したすべての人々が強い証を得，一層強い愛を感じた大会は終りました。

日本西部伝道部は大きく発展しつつあります。主はこの地における御業を押し進めるために導きを与えておられます。

当伝道部で一番新しい宮崎支部では，8月29日に最初のバプテスマが行なわれました。この最初のバプテスマを受けたのは，2カ月間の家庭集会を終えた山本よしえ姉妹です。バプテスマの様式を一度も見ていない彼女は，どのように行なわれるのか少し心配の様子でした。しかしバプテスマを受けたあと，彼女はその儀式の簡潔さと美しさに深く心を打たれたのです。

山本姉妹

また，書物を読むのに5センチから10センチに近づけなければ読めないという62才になる浜口兄弟は，奥さんの浜口姉妹と共にバプテスマの前に読み終えるように言われていたモンモン経を少しずつ読み，他の兄弟姉妹が広島の大会から帰って来た時には，最後の数ページを残すだけとなっていました。浜口兄弟姉妹は準備をし，バプテスマを待ちました。二人は真理を見い出したのです。

また主は，橋本姉妹が教会に入るように望まれていたようにも思えます。長老たちは，映写機を手に入れようとしていた時，はじめて彼女に会いました。そののち，新しい地で個別訪問をすることに決めた長老たちが，最初に訪ねた家が橋本姉妹のお宅だったのです。こうして家庭集会を受け，彼女は8月31日，松江にいる浜口兄弟姉妹と共にバプテスマを受けました。

私たちが主の御業をなす時，主は必ず助けたもうことを証します。

ワットフォード長老，橋本姉妹，浜口兄弟姉妹，ウォルポール長老

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九七〇年十月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十四巻第十号

誘惑につきまとわれたくなければ

リチャード　L. エバンズ

以前ある人がこう言った。「誘惑から逃げ出す時に転送の住所を書き残していく人があるものだ」。そのことから我々は考える。何が試しの誘惑で、何がもてあそぶだけの誘惑で、何が思考の遊びなのかと。我々自身が問題を引き起こし、困難を招く場合もある。それはおそらく、いわゆる刺激を求め、よくない時刻に、よくない理由で、よくない場所へでかけある時は好奇心から、ある時は不健康な関心をいだいて事を行なう時である。我々は孟子のこの言葉を忘れてはいないだろうか。「なさざるべきことをなさぬと人に決意させよ、さらばなすべきことを勢よくなす自由あらん。」我々がなしてはならぬことをはっきり決めないところから、しばしば問題が起きる。扉を少しあけておき、道をなかばまで、あるいは途中まで、またはほんの少しだけ踏み込もうとする人があろう。しかしわずかばかり踏み込むことでさえ、ある時には重大事となる。この世の人生は短かく、速い。だがそれは、実に重要な永遠に長い人生でもある。行くべき正しい場所が多くあり、行なうべきよいことが多くあるにもかかわらず、よくないことに時間を費して、我々は自らを正しいとできるであろうか。もしほんの少しよくないことに足を踏み入れるならば、我々はもはや安全ではいられない。まず少し、次にもう少し…、こうしてやがて方向と距離の感覚を失っていくのである。我々は、標準、律法、人生の道標を、助言、いましめ、道徳の原則を自分に必要としている。我々は現実をもって己れを直視せねばならぬ。自分は正直か、どこまで進むべきか、どこへは行ってならないのかを。そして依り頼むべき一線を画し、正しく安全で徳ある場所を固持せねばならぬ。それがたとえ古くさく見えようと、我々の平安と自尊心はつかのまの興奮や目先きの定かでない楽しみや我々を危険ないやしい世界へと引き込む冒険よりもはるかに価値高いものである。危機に近づかずして危機に陥った者はいない。「誘惑から逃げ出す時に転送の住所を書き残していく人があるものだ」。誘惑につきまとわれたくなければ、興味あるかのように振舞わないことである。

聖徒の道
1970年10月20日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ウォルターR. ビルス
発行所　東京都港区南麻布5－8－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話 (442)7459
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間 1,000円 （外国4ドル50セント）
電報受信略号 「トウキョウ」マツジツ